

Ⅲ.基金創立30周年記念事業

Ⅲ. 基金創立30周年記念事業

1. 日韓の女性作家による朗読と鼎談「ことばの調べにのせて」

- 基金創立30周年記念事業として、また日韓文化交流会議を支援する形で、基金創立30周年にあたる2013年12月15日に県立神奈川近代文学館において、日韓両国で人気の女性作家による自作朗読と鼎談を行った。
- 日本側は直木賞作家の江國香織氏が、韓国側は現代韓国を代表する作家であり、韓日文化交流会議委員でもある鄭梨賢氏が、各々自作の短編集『号泣する準備はできていた』から「前進、もしくは前進のように思われるもの」と、『今日のウソ』から「三豊(サンブン)百貨店」の朗読を行った。その後、神奈川近代文学館館長で日韓文化交流会議の委員でもある辻原登氏が加わり、鼎談を行った。
- 近年の日韓の文化交流は、テレビドラマに代表される韓流ブームのほかに、日韓の作家の作品が相手国で人気を集めるという静かな動きがある。因みに、江國香織氏の作品は30余編が韓国で翻訳出版されているほど人気が高く、鄭梨賢氏も長編小説『マイスウィートソウル』や短編が日本で翻訳出版されるなど、注目されている。
- 朗読会会場の220席は文学愛好家で満席になった。また、公演の様子は当日夜のNHKのテレビニュースで放映されたほか、東亜日報が「冷え冷えしている韓日関係を、文学のぬくもりが温めてくれる」とのコメントを加えながら紹介記事を掲載した。



小説家、国籍違えど、物語はどこかでつながる
『東亜日報』 2013年12月16日付

2. 日韓の芸術家による合同公演「えん～縁・演・宴～」

- 155

- 本公演は、日韓関係が政治的にギクシャクし、相互の国民感情が疎遠な関係になりつつある時期に開催されることになった。しかしながら、レセプションの挨拶で韓日文化交流会議の鄭求宗委員長から「今回の合同公演で国民同士の心は開かれていることを確認することができた」と述べられたように、日韓関係における民間の文化交流は確かに根付いていると、内外に発信する機会になった。
- 12月19日付東亜日報は、「外交は行き詰るも、韓日の舞踊・音楽は調和なす」という見出しで本公演を報じるとともに、「両国の外交関係が難しい局面にある今、文化が果たす役割が何かを考えてみる場となった」旨の鞠守鎬氏のコメントを紹介した。



公演パンフレット(表紙)

[illegible]

外交は行き詰まるも、韓日の舞踊-音楽は調和をなす
駐日韓国文化院にて文化交流公演 両国の舞踊団・演奏者が一つの舞台に
『東亜日報』 2013年12月19日付

プログラム

第1部 音と舞

「春雪」 デイデyim 舞踊団

「ひとりきりのアリラン Rips」 李侖勅

「清明の譜 獅子の狂乱」高橋明邦（小鼓、締太鼓）、花柳吉千凰（舞）、竹井誠（笛・尺八）

「春香歌より離別歌」 安淑善（パンソリ）、李太白（鼓手）

「赤鼓」TAGO (打鼓)

「海の豊饒」英哲風雲の会

第2部 日韓の饗宴

日韓ジャズの競演

「フットプリント (Footprints)」 礒見博カルテット

「おかしな兎のためのワルツ～Again」 南宮演、関栄治、Moollonkyen

日韓ギターとフルートの共演 大竹史朗（ギター）、金希叔（フルート）

「栗毛の馬」

「トラジ」

「ハンアノ舞」第一部「月の乙女」第二部「サンジヨ〜ブルース」第三部「ダンス」

日韓・歌の饗宴 田月仙（ソプラノ）、安達朋博（ピアノ伴奏）

「アリラン～桜」

「山河を越えて（高麗山河わが愛）」

「ふるさと～故郷の春」

3. 日韓の中高生による「作文コンテスト」

- 基金創立30周年を記念して、日韓の中・高生を対象に「作文コンテスト」を実施した。テーマは、「私が感じた韓国（日本）」、または「日韓交流について考えること」で、2013年6月28日から10月25日まで募集したところ、合計205名の応募があり、審査の結果、71名（最優秀賞26名、優秀賞45名）を表彰した。

部門	最優秀賞	優秀賞	応募者数
日本中学生	6名	12名	45名
日本高校生	6名	11名	31名
韓国中学生	8名	10名	35名
韓国高校生	6名	12名	94名
合 計	26名	45名	205名

- 各部門の最優秀賞受賞者には訪日・訪韓研修団へ招待した。なお、1993年の基金創立10周年の際にも日韓の高校生の作文コンテストを実施し、成績優秀者の訪日・訪韓招待を行った。
- 基金創立30周年を迎えた2013年は、新政権が日韓両国で誕生したが政治的・外交的軋轢のために首脳会談開催の見通しも立たないという非正常な関係が続いた1年であった。しかし、応募作品からは、当世の両国の中高生の日韓関係に対する考えは建設的かつ前向きであり、また、既成概念に束縛されずに柔軟な思考で交流している姿が読みとれた。

【優秀作品の紹介】

応募作品の中から、計10名の優秀作品を日本語および韓国語で紹介する。

掲載作品者

日本側（五十音順）

薄井春香	女	福島県いわき市立三阪中学校3年	「私が感じた韓国」
根本直哉	男	福島県いわき市立平第二中学校3年	「日韓交流について考えること」
舘野 涼	女	福島工業高等専門学校2年	「日韓交流について考えること」
A.H	女	都立高等学校2年	「日韓交流について考えること」

韓国側（韓国語順）

金奈潤（キム・ナユン）	女	津寛中学校3年	「私が感じた日本」
金引徳（キム・インドク）	女	釜山善花女子中学校2年	「韓日交流は必要だ」

李賢雄（イ・ヒョンウン） 男 津寛中学校3年 「文化交流を楽しむ私たちの姿勢」

王寅瑞（ワン・インソ） 男 慶南高等学校2年 「日の昇る国」

張普景（チャン・ボギョン） 女 京畿外国語高等学校2年

「責任あるコミュニケーションに基づいた交流の継続強化」

趙在赫（チョ・ジェヒョク） 男 彌鄒忽外国語高等学校2年

「今でも忘れない、日本の地を踏んだ瞬間 私に向かって振ってくれた客室乗務員のあの白い手を」

① 日本の中高生

- 1) 韓国は怖い国だと思っていたが、訪韓して韓国に対する見方が180度変わった。友達ができたことが大きい。韓国の文化、歴史、国民性は日本に負けないくらい魅力的である。友情の間にあるのは思いやりだけで、そこには領土問題も日韓問題もない。
- 2) 訪韓して韓国に対する偏見がなくなった。日韓関係は悪いイメージを植え付けられているのが現状。国際関係も人間関係のように相手を知り、互いを認め合うことが大切である。
- 3) 反日感情に対する不安を持ちながら訪韓したが、韓国の学生とはお互いに国を意識せず、一人の人間として接した。交流で大切なのは、国籍、歴史的・政治的な問題ではないと思う。
- 4) 今まで、在日韓国人という存在について知らなかった。無知が故に韓国への偏見が生まれ、韓国との問題を大きくしているのではないか。何も知らないでいるのは韓国に対して失礼であり、間違った認識のままで良い関係が築かれることはない。

② 韓国の中高生

- 1) 日本とは歴史的問題でぶつかり合ったり、時々理解に苦しむこともあるが、日本の文化は面白く、日本は魅力的な国だ。
- 2) 過去の日韓の歴史だけにこだわろうとすれば、韓国のこれからの発展はない。日韓が文化交流を通じ協力できれば、共に先進国として発展し世界に大きく貢献できると思う。
- 3) 異文化と接する時には排他的民族主義の視線で見えてはならず、相手の個性を尊重し、その文化を理解しようとする努力が大切である。
- 4) 日本人の親切さと個性ある大衆文化に接して日本が好きになり、日本は自分にとって特別な存在となった。
- 5) 日韓関係を良い方向に進めるためには、コミュニケーションを通じて相互理解と信頼関係を深めるという好循環が必要であり、そのためには責任あるコミュニケーション

ンとその継続が大切である。

- 6) 訪日して日本の魅力にとりつかれてしまったが、日本人は身近な人には優しい反面、他所の人に対しては冷たい非情な面もあり、日本と韓国とは大きな国民性の違いがあった。

「私が感じた韓国」

福島県いわき市立三阪中学校3年 薄井春香

「日本が嫌いな人が多い韓国に行くなんて怖すぎる」。

韓国に行く前、私はそう思っていた。ちょうど、反日運動が盛んな時に韓国への出発に向けて準備をしていた。

テレビから様々なデモの様子が流れていた。例えば日本の国旗が燃やされたり…。その様子を見て、「なぜ韓国に行くのだろう？」異国へ行く事への期待と、そんな疑問を抱えていた。

しかし、そんな疑問や不安は韓国に行ってすぐに払拭された。なぜなら、韓国を知ったからだ。韓国の歴史、文化、国民性を知ることが出来たからだと思う。何も知らずにただニュースを見て韓国を批判していた自分を恥ずかしく感じた。

私の韓国に対する考え方が変わったきっかけは、韓国を知ったことはもちろん、友達が出来たことが一番大きい。言葉は通じなくても心は繋げられると学び、確かな友情を築くことが出来た。そしてそれは今も続いている。日本から見た韓国ではなく、私から見た友達の国として見るようになった。また、日本と韓国の問題を、私の国と友達の国の問題として真剣に考えるようになったように思う。

さらに、友人の国の立場になって日本を見ることもできるようになった。例えば、日本はこう主張しているが、外国からしてみれば、その主張は間違っているのではないかと考えるようになったのだ。知らず知らずの内に、グローバルな視点を手に入れられていたことに、私自身とても驚いた。

それを手に入れることが出来たのは、日本と一番近い韓国に行ったことも大きな要因であったように思う。領土問題のような隣国同士ならではの

たくさんの問題を抱えているからこそ、グローバルな視点で日本を、そして自分の住む地域の在り方を見られるようになった。

これから日本と韓国はもっとお互いを考え、関心を持つようになるべきだと思う。

私は韓国研修で韓国の伝統文化、歴史、国民性を知ったが、日本に負けないくらい魅力的であった。私の知らなかった韓国に出会えたこと、そして友達が出来たことで、韓国への見方が180度変わったのである。

だから、私のように韓国へ行く前に、また日本に来る前に「怖い」と思っ
て欲しくない。日本人と韓国人の友情の間に領土問題も日韓問題もなく
て、あるのは友情と思いやりだけなのだから。

互いを認め合って、世界で活動するにあたって不足している部分を韓国
と日本で互いに補っていく。それが日本と韓国の在るべき姿なのではない
だろうか。

私は韓国研修で日本大使館公報文化院で一等書記官の方にお会いし、私
も世界で働く人間になりたいと強く感じた。そして日本の魅力と世界の魅
力を伝えて、世界との架け橋になりたい。とても大変なことだと思うが、
自分の夢を抱けたことも、グローバルな視点を得ることが出来たからだ。

私は韓国へ行って、本当に変わることが出来た。この経験を様々な人に
伝えて、韓国のことを広めたい。そしてそれが韓国と日本の在るべき姿へ
となる第一歩となるように私は私に出来ることをしていこうと思う。



(韓国語訳)

「내가 느낀 한국」

후쿠시마현 이와키시립 미사카중학교 3학년 우스이 하루카

‘일본을 싫어하는 사람이 많은 한국에 가는 건 너무 무서워’

한국에 가기 전 나는 그렇게 생각했다. 마침 반일시위가 한창일 때 한국으로 출발하는 준비를 하고 있었다.

TV에서 여러 시위 장면이 나왔다. 일본 국기를 불태우거나…그런 모습을 보고 ‘왜 한국에 가려고 하는 걸까?’ 외국을 방문하는 기대감과 더불어 그런 의문을 갖게 되었다.

그러나 그런 의문과 불안은 한국에 도착한 후 곧 사라졌다. 왜냐하면 한국을 알았기 때문이다. 한국의 역사와 문화, 국민성을 알 수 있게 되었기 때문이라고 생각한다. 아무 것도 모르고 단지 뉴스만 보고 한국을 비판했던 자신을 부끄럽게 여겼다.

한국에 대한 내 생각이 바뀐 계기는 한국을 알게 됐다는 것뿐만 아니라, 친구를 사귀게 됐다는 점이 가장 크다. 말이 통하지 않아도 마음은 연결된다는 것을 배우고 확실한 우정을 쌓을 수가 있었다. 그리고 그 우정은 지금도 변치 않고 계속되고 있다. 일본에서 보는 한국이라는 인식뿐만이 아니라 내가 보는 친구의 나라로 인식하게 되었다. 또 일본과 한국의 문제를 우리나라와 친구의 나라 사이의 문제로 진지하게 생각하게 되었다고 느꼈다.

또 친구 나라의 입장에 서서 일본을 볼 수 있게도 되었다. 예를 들어 일본은 이렇게 주장하고 있지만 외국에서 보면 그 주장은 틀린 것이 아닐까 라고 생각하게 된 것이다. 나도 모르는 사이에 글로벌한 시점을 갖게 되는데 나 자신도 놀랐다.

이러한 인식을 갖게 된 것은 일본과 가장 가까운 한국을 방문했던 것이 커다란 요인이었던 것으로 생각된다. 영토문제와 같은 이웃한 나라 간의 많은 문

제를 안고 있기 때문에, 글로벌한 시점으로 일본과 자신이 살고 있는 지역을 볼 수 있게 되었다.

앞으로 일본과 한국은 더욱 서로를 생각하고 관심을 가져야 한다고 생각한다.

나는 한국 연수를 통해 한국의 전통문화와 역사, 국민성을 알게 되었는데, 이는 일본에 뒤지지 않을 정도로 매력적인 것이었다. 내가 알지 못했던 한국을 알게 되고 친구를 사귀게 되어 한국에 대한 내 인식이 180도 바뀌게 되었다.

그렇기 때문에 나처럼 한국에 가기 전에, 또 일본을 방문하기 전에 ‘무섭다’고 생각하지 않았으면 좋겠다. 일본인과 한국인의 우정 사이에는 영토문제나 한일간의 문제가 아니라 오로지 우정과 배려만이 있기 때문이다.

서로를 인정하고 세계에서 활약하는데 있어 부족한 부분을 한국과 일본이 서로 보완해 가는 것이 양국이 지향해야 할 모습이 아닐까.

한국 연수를 통해 일본대사관 공보문화원의 일등서기관을 만나 나도 세계에서 활약하는 사람이 되고 싶다고 느꼈다. 그리고 일본의 매력과 세계의 매력을 전해 세계와의 가교가 되고 싶다. 매우 힘든 일이라고 생각되나, 자신의 꿈을 갖게 된 것도 글로벌한 시점을 갖게 되었기 때문이라고 생각한다.

나는 한국에 가서 정말로 바뀌었다고 생각한다. 이 경험을 여러 사람에게 전해 한국을 널리 알리고 싶다. 그리고 그것이 한국과 일본이 지향해야 할 모습으로 나아가는 첫걸음이 되도록 하기 위해 내가 할 수 있는 해 나갈 생각이다.

「日韓交流について考えること」

福島県いわき市立平第二中学校3年 根本直哉

僕は今年9月に、日韓文化交流基金主催のもと、JENESYS2.0福島県いわき市訪韓研修団の一員として韓国研修に参加しました。その体験を踏まえて、日韓交流について考えるところを述べさせていただきます。

日本と韓国といえば、よくニュースなどで耳にする領土問題など、お互いにあまり良い印象を抱いていない人が多いかもしれません。実際に、僕もこの訪韓に参加する前は、心のどこかで韓国に対して偏見を抱いていました。

しかし、訪韓の5日目のことでした。その日、韓国の東馬中学校を訪れ、現地の中学生と一緒に授業を受け、スポーツに汗を流しました。そして、言語の壁がある中でも、簡単な英語や身振り手振りを駆使してコミュニケーションを取ることができ、とても楽しい一日を過ごすことができました。僕が一番驚いたのは、韓国の中学生在がとても親切で積極的に話しかけてくれたことです。そこには、世間の考えなどは関係なく、一人の人として、お互いを認め合う姿がありました。

また、この他にも韓国の伝統文化体験や、歴史ある建物の見学など、韓国について深く知るとても良い機会になりました。

このように、訪韓という体験を通して、僕の中で韓国に対しての印象が良い方向に変わりました。今なお、当時知り合った友達との交友は続いています。

今日の国際社会はグローバル化が進んでいます。もし、国同士が何の関わりも持たない鎖国的な考えだとしたら、たしかに争いや問題は何一つ起きないでしょう。しかし、国どうしが共に発展していくために、そして永久の目標である平和のために協力していくことは必要不可欠です。日本と

韓国を例にとっても、隣国として協力してこれからの国際社会をリードしていくべき立場にありながら、このように問題が絶えません。それ以前に、悪いイメージを植え付けられているのが現状です。私は、第一にお互いを認め合うことが大切だと考えます。このように国際社会の関係について考えたとき、身近な例として普段の人間関係があてはまると思います。人付き合いというものは、相手を知り、相手の良さも悪さも認め合い、心を開いて受け入れることから始まります。この延長線上に国際社会があるにすぎません。

私の将来の夢は、国連の教育関係の機関で働き、世界中の子どもたちが教育を受けられるような環境をつくることです。そして韓国研修で学んだ「オープンマインド」の大切さをより多くの人に伝えたいと思います。僕が今回の訪韓を通して、韓国について深く知れたように、より多くの人たちが、特に若い世代からこのような体験をするべきだと思います。そうして育っていく者が社会をつくっていくとき、本当の交流が生まれることでしょう。そして、同じ地球人として本当の国際社会を築いていけることを信じています。



(韓国語訳)

「한일 교류에 대해서 생각한 점」

후쿠시마현 이와키시립 타이라다이니중학교 3학년 네모토 나오야

저는 올해 9월, 일한문화교류기금주최 JENESYS 2.0 후쿠시마 이와키시 방한연수단의 일원으로 한국 연수에 참가하였습니다. 이 경험을 바탕으로 한

일교류에 대해서 생각한 점을 쓰려고 합니다.

일본과 한국이라고 하면, 뉴스 등에서 자주 들었던 영토문제 등을 사례로 서로 좋은 인상을 가지고 있지 않은 사람이 많을지도 모릅니다. 실제로 저도 이번 한국 연수에 참가하기 전에는 마음 한 구석에 한국에 대한 편견을 가지고 있었습니다.

그러나 방한 5일째였습니다. 그 날 한국의 동마중학교를 방문하여 한국의 중학생들과 함께 수업을 듣고, 운동하면서 땀을 흘렸습니다. 언어의 장벽이 있었지만, 간단한 영어와 손짓 발짓을 하면서 의사소통을 할 수 있게 되어 매우 즐거운 하루를 보낼 수 있었습니다. 제가 가장 놀랐던 것은 한국의 중학생들이 아주 친절하고 적극적으로 말을 걸어왔다는 것입니다. 이는 일반의 생각과는 관계없이 한 사람으로써 서로를 인정하는 자세였습니다.

그 외에도 한국의 전통문화 체험, 역사적인 건물의 견학 등, 한국에 대해서 깊이 알 수 있게 된 좋은 기회였습니다.

이렇게 한국 방문의 체험을 통해서 한국에 대한 인상이 좋은 방향으로 변화하였습니다. 지금도 그 때 알게 된 친구들과 계속 교류하고 있습니다. 오늘날 국제사회는 글로벌화가 진행되고 있습니다. 만약 국가들이 어떠한 관계도 맺지 않는 쇄국적인 생각을 가지고 있다면, 분명히 분쟁이나 문제는 하나도 발생하지 않을 것입니다. 그러나 국가들이 함께 발전해 나가기 위해서, 그리고 영구적인 목표인 평화를 위해서 협력해 나가는 것은 필요 불가결합니다. 일본과 한국의 사례에서도 나타나듯이, 이웃 국가로서 협력하여 앞으로 국제사회를 주도해 나가야 할 입장이면서도 이렇게 문제가 끊이지 않습니다. 그 이전에 안 좋은 이미지가 심어져 있는 것이 현 상황입니다. 저는 첫 번째로 서로를 인정하는 것이 중요하다고 생각합니다. 이렇게 국제사회의 관계에서 생각할 때, 가까운 예로 평상시의 인간관계를 들 수 있습니다. 사람과의 교제는 상대를 알고, 상대의 좋은 점뿐만 아니라, 나쁜 점도 인정하고, 마음을 열어 받아들이는 것부터 시작됩니다. 이 연장선상에 국제사회가 있습니다.

저의 장래희망은 UN산하 교육관계 기관에서 일하면서 세계의 아이들이 교육을 받을 수 있는 환경을 만드는 것입니다. 그리고 한국 연수에서 배운 ‘오픈

마인드'의 중요성을 보다 많은 사람들에게 전하고 싶습니다. 제가 이번 한국 방문을 통해서 한국을 깊이 알 수 있게 되었던 것과 같이 보다 많은 사람들, 특히 젊은 세대부터 이러한 체험을 해야 한다고 생각합니다. 이렇게 성장한 사람이 사회를 만들어 갈 때, 진정한 교류가 생길 것입니다. 그리고 같은 지구인으로서 진정한 국제사회를 구축해 나갈 수 있다는 것을 믿고 있습니다.

「日韓交流について考えること」

福島工業高等専門学校2年 舘野 涼

私は今年の夏に、韓国の学生と放射線についてのディスカッションをするため、生まれて初めて韓国に渡航しました。韓国を訪れる前、私は訪問することに少し不安がありました。それは、ニュースやインターネットで「韓国人の持つ反日感情」というものを知っていたからです。歴史的、政治的な背景から、韓国人は何かしらの日本嫌いがあり、また、その感情は暴言になったり、暴力になったりもするということをニュースなどで知っていました。韓国に行っても実際に韓国の学生と仲良くできないかもしれない、喧嘩になってしまうかもしれないという不安でいっぱいでした。

しかし、韓国での約5日間、私は韓国の学生とともに楽しく、充実した時を過ごしました。お互いに、自分の放射線に関する意見を述べて、意見がたとえ異なるものになったとしても、尊重し合う、そんな関係が自然に成り立っていました。韓国の伝統的な食事を囲みながら、日本語を教えてあげたり、お互いに日本での名前と韓国での名前を考えてあげたり、私にとって決して忘れられない思い出になりました。

帰国後、父は私に「韓国の学生は優しくかったか？何か傷つくこと言われなかったか？」と尋ねました。私はそう聞かれた時、なんでこんなことを聞くのだらうと思いました。韓国から帰ってきた私は、韓国では「反日感情」を持っている人が多いということをすっかり忘れていたのです。それくらい、韓国の学生は優しく、相手も私もお互いに素直な気持ちで接していたのです。そもそも、韓国で一緒に過ごしていた時は、この子は韓国人だ、あの子は日本人だといった意識を持っていなかったことに、帰国後私は気づきました。韓国の学生と交流している時は、それぞれの国を意識せず、ただ一人の人間、仲間として接していました。同じ目的を持ってい

る仲間として、笑いあったり、相談しあったりしていました。そこには、お互いの国籍、政治的背景が生み出す遠慮などはなかったのです。

韓国に限らず、世界中のどの国とでも歴史的、政治的なトラブルはあります。その中でも、特に韓国とは「竹島問題」「慰安婦問題」という重大な問題が今でも残っています。もちろんこのような問題を見做すのではなく、お互いの摩擦を取り除くために努めていかなければならないはずです。

しかし、今回のような交流会、ディスカッションといった場合、果たしてこのような国籍が生み出すわだかまり、遠慮は必要なのでしょうか。より良いものを作るためや、何かを達成するために集まった仲間との間には、国籍や歴史的、政治的な見方は必要がないと思います。両国の学生はひとりの人間であり、自分自身の意見を主張し、相手の意見をしっかり聞くべき仲間なのです。もちろん、「遠慮はいらないから何でも言っている」というわけではありません。ひとりの人間として、相手の考え、アイデンティティは尊重すべきです。

現在でも、SNSなどを通じて韓国の学生とは交流を続けています。今日食べたお昼の話や、最近見たお気に入りの映画の話といったたわいのない話、たまには原子力関係のシリアスな話もします。歴史的、政治的な関係を越え、お互いひとりひとりの人間として、意見を言い合ったり、相談し合ったりできる環境・関係を築くことができました。とても素晴らしいことだと思います。「日韓交流」を語る上で、最も大切にしなければいけないことは、相手も自分も一人の人間で、同じ仲間として同じ目的を持って活動しているということです。そこに「韓国人」「日本人」という国籍、歴史的、政治的な問題は必要がないことなのです。



(韓国語訳)

「한일 교류에 대한 생각」

후쿠시마공업고등전문학교 2학년 다테노 스즈

저는 이번 여름에 한국 학생들과 방사선에 대한 토론을 하기 위해 난생 처음 한국에 왔습니다. 한국을 방문하기 전에 저는 조금 불안했습니다. 왜냐하면 신문이나 인터넷에서 ‘한국인이 가지고 있는 반일 감정’ 이라는 것을 들은 적이 있었기 때문입니다. 역사적, 정치적 배경 때문에 한국인은 일본에 대해 뭔가 좋지 않은 감정을 가지고 있고, 그 감정은 폭언이나 폭력이 되기도 한다는 것을 뉴스 등을 통해 알고 있었습니다. 한국에 가서도 실제로 한국 학생들과 사이 좋게 지낼 수 없을지도 모른다, 싸움이 일어날지도 모른다는 불안으로 가득 차 있었습니다.

그러나 저는 한국에서 지낸 약 5일간 한국 학생들과 아주 즐겁고 충실한 시간을 보냈습니다. 서로 방사선에 관한 자신의 의견을 말하고, 비록 의견이 달라도 상대방의 의견을 존중하는, 그런 관계가 자연스럽게 이루어졌습니다. 한국의 전통 음식을 먹으면서 일본어를 가르쳐 주거나 서로 일본 이름과 한국 이름을 붙여 주는 등 저에게는 결코 잊을 수 없는 추억이 되었습니다.

귀국한 저에게 아버지는 “한국 학생들은 상냥했나? 뭔가 상처 받는 말을 듣지는 않았나?”

라고 물으셨습니다. 아버지가 이렇게 물으셨을 때, 왜 이런 것을 묻는걸까 생각했습니다. 한국에서 돌아온 저는 한국인 중에 “반일감정” 을 가지고 있는 사람이 많다는 것을 완전히 잊어버린 것입니다. 그만큼 한국 학생들은 친절했고, 상대방이나 저나 서로 솔직한 마음으로 접했던 것입니다. 아니 애초부터 한국에서 함께 지내던 동안은 애는 한국인이다, 재는 일본인이다라고 의식하지 않았다는 것을 귀국 후 저는 깨달았습니다. 한국 학생들과 교류할 때는 각 나라를 의식하지 않고 그저 한 명의 사람으로, 친구로 접했습니다. 동일

한 목적을 가지고 있는 친구로 같이 웃고 서로 상담 하기도 했습니다. 거기에는 서로의 국적이나 정치적인 배경이 만들어내는 거리낌 등은 없었습니다.

한국뿐만 아니라 세계 어느 나라와도 역사적, 정치적인 문제는 있습니다. 그 중에서도 특히 한국은 ‘타케시마(독도) 문제’, ‘위안부 문제’ 라는 심각한 문제가 지금도 남아 있습니다. 물론 이러한 문제를 무시하는 것이 아니라 서로의 마찰을 없애기 위해 노력해 나가야 할 것입니다.

그러나 이번과 같은 교류회나 토론회와 같은 경우, 과연 이러한 국적이 낳는 응어리나 거리낌이 필요한 것일까요? 더 좋은 물건을 만들기 위해 또는 뭔가를 달성하기 위해 모인 우리 사이에는 국적이나 역사적, 정치적인 견해는 필요가 없다고 생각합니다. 양국 학생들은 한 인간이며, 자신의 의견을 주장하고 상대방의 의견을 제대로 들어야 하는 친구입니다. 물론 “사양은 필요없으니까 어떤 말을 해도 좋다” 라는 것은 아닙니다. 한 인간으로서 상대의 생각, 아이덴티티(identity)는 존중해야 합니다.

지금도 SNS 등을 통해 한국 학생들과는 교류를 계속하고 있습니다. 오늘 먹은 점심 이야기나 최근 본 좋아하는 영화의 이야기 같은 일상적인 이야기부터 가끔은 원자력 관계와 같은 진지한 이야기도 합니다. 역사적, 정치적인 관계를 넘어 서로 개개인의 인간으로서의 의견을 서로 말하거나 상담할 수 있는 환경·관계를 구축할 수 있었습니다. 매우 멋진 일이라고 생각합니다. ‘한일 교류’ 를 말하는데 있어서 가장 소중히 하지 않으면 안되는 것은, 상대도 자신도 한 사람의 인간이며, 같은 친구로서 같은 목적을 가지고 활동하고 있다는 것입니다. 거기에 ‘한국인’ ‘일본인’ 이라는 국적, 역사적, 정치적인 문제는 필요없다라는 것입니다.

「日韓交流について考えること」

都立高校2年 A.H

私は、学校の選択授業で毎週2時間、ハングルの勉強をしている。この授業ではただハングルを習うだけではなく、今までには韓国語の歌を聴いたり韓国映画を観たりしてきた。今度は家庭科室を借りて韓国料理を作る予定だ。

私がこの授業に参加した理由は、韓国と日本の関係をもっと知りたいと思ったからだ。

そう思ったきっかけは、鷺沢萌著『ほんとうの夏』という小説を読んだことにある。この小説では、普通の日本人と同じように暮らしてきた在日韓国人三世である青年の、在日韓国人であるが故の心の葛藤が描かれている。初めてこの小説を読んだとき、私は衝撃を受けた。この小説を読むまで、在日韓国人という存在について知らなかったからだ。「通名」や「指紋押捺」という言葉の意味がわからなかったし、主人公が、自分が韓国籍だと明かすのをためらうことも理解できなかった。こうして私は、身近に自分が全く知らない事実があることに気がついた。

在日韓国人について調べることにした私は、港区にある在日韓人歴史資料館を訪れた。そこには、私の知らない歴史がたくさんあった。小学校でも中学校でも高校でも歴史を学んできたが、そこで見たのは一度も聞いたことのない話ばかりだった。しかもそれは何だかとても複雑で悲慘な話で、どうやら日本と韓国は仲が悪いようだった。一方、インターネットでも調べてみることで、なぜこの小説の主人公が自分の国籍を明かすのをためらうのかがわかってきた。インターネットの世界では、「在日」という言葉は明らかに良い意味では使われていなかった。

在日韓国人について調べて、自分の無知さにも、これらのことが知れ

渡っていない日本にも驚いたし、こういった韓国との関係を知る日本人が
少ないということが、韓国と日本との間の問題を大きくしている原因のひ
とつなのではないかと感じた。また、日本人のイメージする韓国や韓国人
像に、無知であるが故の偏見が含まれているのかもしれないと考えた。そ
うだとすれば、いつまでも何も知らない日本人でいるのは、韓国に対して
失礼である。

韓流ブームや竹島問題などで色々な方面から韓国への関心が高まってい
る今こそ、二国間の問題について知ることのできる環境があるべきだ。何
も知らないまま、また、間違った認識のまま、良い関係が築かれることは
ないだろう。日本と韓国がお互いに嫌い合う原因が過去の歴史にあるとい
うなら、その歴史は避けられるべきではなく二国間で話し合われるべき
だ。

一緒にハングルの授業を受けている友達の中でも、この授業を取ろうと
思った理由はK-POPが好きだからとか韓国を舞台にしたアニメにはまっ
たからなど様々だ。このように、今は韓国に興味を持つきっかけが色々あ
る。韓国の文化と交流していく中で、韓国に対する日本の無知さは解消さ
れていくのではないかと感じている。

そしてまず、私は韓国へ行き韓国語で会話をして、無知から脱出したい
と強く思っている。更にそのことで今度は私が誰かを無知から解放できた
ら、これほど嬉しいことはない。



(韓国語訳)

「한일 교류에 대한 생각」

도립고등학교 2학년 A.H

나는 학교에서 선택 수업으로 매주 두 시간 한글 공부를 하고 있다. 이 수업은 단지 한글만을 배우는 것이 아니다. 지금까지는 한국어 노래를 듣거나 한국 영화를 보거나 해 왔는데 앞으로는 가정과 교실을 빌려 한국 요리를 만들 예정이다.

내가 이 수업을 선택한 이유는 한국과 일본의 관계를 좀 더 알고 싶다고 생각했기 때문이다. 그렇게 생각한 것은 사기사와 메구무(鷺沢 萌)의 “진정한 여름”이라는 소설을 읽은 것이 계기였다. 이 소설은 보통 일본인처럼 살아온 재일한국인 3세인 청년이, 재일한국인이어서 생기는 마음의 갈등이 그려져 있다. 처음 소설을 읽었을 때 나는 충격을 받았다. 이 소설을 읽을 때까지 재일한국인이라는 존재에 대해 알지 못했기 때문이다. “통명^(*)”이나 “지문날인”이라는 말의 의미를 알지 못했고, 주인공이 자신이 한국 국적이라고 밝히는 것을 주저하는 것도 이해할 수 없었다. 이렇게 해서 나는 내 주변에 내가 전혀 모르는 사실이 있음을 알게 되었다.

재일 한국인에 대해 조사하기로 한 나는 미나토에 있는 재일한국인 역사 자료관을 방문했다. 거기에는 내가 모르는 역사가 많이 있었다. 초등학교에서도 중학교에서도 고등학교에서도 역사를 배워 왔지만, 여기서 본 것은 한 번도 들어 본 적이 없는 이야기뿐이었다. 게다가 그것은 뭔가 매우 복잡하고 비참한 이야기로, 아무래도 일본과 한국은 사이가 나쁜 듯 했다. 한편, 인터넷에서도 알아봄으로써 왜 이 소설의 주인공이 자신의 국적을 밝히는 것을 주저했는지 알게 되었다. 인터넷 세계에서는 ‘재일’이라는 말은 확실히 좋지 않은 의미로 사용되고 있었다.

재일한국인에 대해 알아보고 자신의 무지와 이런 일이 널리 알려있지 않은

일본에도 놀랐다. 이러한 한국과의 관계를 아는 일본인이 적다는 것이 한국과 일본 사이 문제를 크게 하는 원인의 하나가 아닐까하고 느꼈다. 또 일본인이 이미지하고 있는 한국과 한국인 상은 무지하기 때문에 편견이 포함되어 있을 지도 모른다고 생각했다. 그렇다고 한다면, 언제까지나 아무것도 모르는 일본인으로 있는 것은 한국에 대해 실례이다.

한류붐과 독도 문제 등으로 다양한 방면에서 한국에 대한 관심이 높아지고 있는 지금 이야말로 양국간의 문제에 대해 알 수 있는 환경이 있어야 한다. 아무것도 모른 채, 또는 잘못된 인식 그대로 좋은 관계가 구축될 수는 없을 것이다. 일본과 한국이 서로 싫어하고 있고 그 원인이 과거사에 있다고 한다면 그 역사는 피해서는 안 되고 양국간에 논의돼야 한다.

함께 한국어 수업을 받고 있는 친구 중에서도 이 수업을 들으려고 한 이유는 K-POP을 좋아하니까 또는 한국을 무대로 한 애니메이션에 빠졌기 때문에 등 다양하다. 이와 같이 지금은 한국에 관심을 가지는 계기가 다양하다. 이렇게 한국 문화와 교류해 나가는 가운데, 한국에 대한 일본의 무지는 해소되어 가지 않을까라고 생각한다.

일본 전체를 말하기 이전에 우선 나부터 한국에 가서 한국어로 이야기를 하며 무지에서 벗어나야겠다고 굳게 결심한다. 또한 이로 인해 다음에는 내가 누군가를 무지에서 벗어나게 해 줄 수 있다면 이보다 기쁜 것은 없다.

(*)본명이 아닌 통성명의 약칭. 통성명으로 유효한 법률행위는 원칙적으로 할 수 없으나 재일외국인의 통명은 거주하는 구청 등에 등록하는 것으로 주민표에 기재되어 법적효력을 가진다. 인감등록증명서나 운전면허증에는 본인의 신청에 의해 본명과 통명을 같이 쓸 수 있다. (예:金美淑(木村淑子))일본 국적인 사람은 통명을 등록할 수 없다(역자주).

「私を感じた日本」

津寛中学校3年 金奈潤

韓国は隣国である日本と直接・間接的に関係が深い。それだけに韓国は日本に多くの関心を持っている。日本で何かが起きると、何時でも多くのニュースや新聞記事となり、SNSでも話題になったりする。また、日常生活の中で日本製品が使われており、オリンピックやサッカーの試合のような韓日戦では、お互いに熱くなったりもする。普通の韓国人は、ある程度日本について知っている。日本が先進国であることもあるが、隣国であることもあり、学校やテレビなどでよく話題になるため、他の国に比べるとよく知っている方だ。しかし、日本の文化について自分の考えを持っている人はほとんどいない。

私は小学校5年生のときまで、「日本」については国の名前と国旗と着物の3つ以外は知らない子供だった。さらには、中国語と日本語の区別さえもつかないほどだった。実際、今も「日本のことなら何でも知っている！」と自信を持って言えるほどではないが、私が経験した数少ない日本文化について話してみたいと思う。

私が日本に関心を持つきっかけになったのは、『名探偵コナン』と『デジモンアドベンチャー』というアニメーションだ。子供の頃は韓国語に吹き替えしたものしか見たことがなかったので、日本のアニメーションだということを全く知らなかった。日本のものだと知ったのは、小学6年生になってからだ。それを知ってから、少し注意深く見るようになり、「アイデアがとても素晴らしい。漫画家はかっこいい」と思うようになった。そして、その頃から日本語を聞くことがなんでもないようになるぐらい、たくさんのアニメーションを見るようになった。

日本語に慣れても日本の歌を聴くのは難しかった。日本の歌を聴く機会

もないまま中学校に入学したが、1年生の初めに合唱コンクールがあって、そのコンクールで歌う曲目を考えるという宿題が出たことがあった。ちょうど暇だったので、インターネットで検索してみた。すると、あるイラストと一緒に出ている映像を発見した。8人の合唱だと書いてあり、好奇心から再生してみると、それは本当に素晴らしい歌だった。日本の歌で、歌が上手だとか歌手の顔が出ていたわけでもなかったのに、とてもさわやかでスカッとした歌だった。その歌を聴いた瞬間、胸がドキドキしたのを今でも覚えている。歌詞もわからず、決して上手でもなく、誰が歌っているのかもわからなかったが、歌っている人が皆楽しそうに自由に歌っている歌だった。私はその歌の出どころを探しはじめた。その歌の出どころは「日本のYouTube」と呼ばれている「ニコニコ動画」というサイトだった。そのサイトは日本の文化空間の縮小版のようだった。イラスト、映像、歌、踊り、楽器、ゲーム、料理、動物など、いろいろなジャンルが1ヶ所に集まっており、まさに別天地だった。私は日本語がわからなかったが、2～3時間そのサイトに入り込んだ。

私はその後、そのサイトにすっかりはまってしまった。そして、日本の歌や文化にもすっかり慣れてしまった。そのサイトは規模がだんだんと大きくなり、そこからデビューする人もいるほどだった。私はバラエティ、映画、ニュース、ドラマ、小説、ライブなど、日本の様々なメディアに接するようになった。そして、日本語の翻訳もできるようになった。私はこのようにしながら、いろいろなものを見て感じとった。

日本は文化活動が活発で自由にできるようだ。国内市場も広い。幼い子供から年配の人まで、会社員であろうと、CDを買ったり、コスプレをしたり、文化を楽しみながら、自分で直接作ることもできる。韓国はK-POPやドラマ、映画の国内市場が狭く活動領域も狭い。違法ダウンロードをする人たちも多い。実際、私の友達も映画や歌やドラマなどを違法ダウンロードで楽しんでいる。日本はちょっと違う。素晴らしい歌や演奏、踊りがあれば、「これはお金を払って見なきゃ」「CDにして出してほしい」

などという反応が多数のようだ。有名なK-POPの歌手でなければお金を稼ぐのが難しい韓国と違って、日本では音楽が様々な形で使われ著作権に対する意識もちゃんとしており、ある程度利益が出るので、国内市場でもお金を稼ぐことができる。

今の私の日本についての印象は、大部分がインターネットを通してのものだ。日本のネット用語は私にとって本当に見慣れないものだった。例を挙げると、「www」というのは本当に変わっている。韓国でいうなら、「ㅋㅋ」のような意味で、笑うという意味の漢字「笑」を入力するとき、キーボードでは「warai」と打たなければならないが、変換せずに簡単に「www」と略して使う。また、SNS用語をひらがなや漢字に変換して使っているのも新鮮だった。

しかし、怖い面もある。私が好きなベーシストや作曲家（上記のニコニコ動画というサイトでは仕事と趣味を兼ねている人たちがいる）が自殺するなど、自殺事件が続いたり、ある人は一度犯した失敗により、何年もの間、絶え間ない非難の書き込みに苦しめられたりしている。時々、未成年者が見るには不適切なものもあったりする。これも、私が感じた日本の一部である。

日本は私に多くの変化をもたらした。そして、思考の幅も広めてくれた。時々、怖いことや外国人の私には理解できないこともある。また、歴史的な問題でぶつかり合うこともある。しかし、それだけに魅力的なところも多くある。韓国と似ているが違うというところもおもしろく、直接体験してみたくもなる。私が感じた日本はごく一部であり、もし日本人がこれを読めば、笑われるかもしれない。しかし、本当に日本文化はおもしろく興味深い。文化を堂々と楽しむことができる個性ある国、ときどき理解に苦しむが独創的な文化がある国、これが私の感じた日本である。



「내가 느낀 일본」

진관중학교 3학년 김나운

우리나라와 이웃나라인 일본은 한국과 직접적, 간접적 관련이 많다. 그만큼 한국은 일본에 많은 관심을 가지고 있다. 항상 일본에서 무언가 일이 일어나면 많은 뉴스와 신문기사가 뜨고, SNS에서도 화제가 되곤 한다. 또 일본 제품이 한국의 일상생활에서 사용되거나, 올림픽이나 축구경기 같은 한일 관계에서는 서로 뜨거워지기도 한다. 보통 우리나라 사람들은 일본에 대해 어느 정도 알고 있다. 일본이 선진국 이라는 이유도 있고, 이웃나라인 이유도 있고, 학교나 TV에서 가끔 일본에 대해 나오기도 하기 때문에 다른 나라들에 비하면 많이 알고 있는 편이다. 하지만, 일본 문화에 대해 자신만의 생각을 가지고 있는 사람은 거의 없다.

나는 초등학교 5학년 때까지 ‘일본’ 이라는 나라의 이름과 국기, 전통이상이 세 개 이외에는 정말 하나도 모르는 아이였다. 심지어는 중국어와 일본어의 생김새도 구별 못 할 정도였다. 사실, 지금도 ‘난 일본에 대해 잘 알고 있어!’ 라고 자신있게 말하기엔 건방질 만큼 잘 알고 있지 않다. 하지만 이번 기회에 나는 내가 겪었던 몇 안되는 일본 문화에 대해 이야기해 보고 싶다.

내가 일본을 알게 된 계기는 ‘명탐정 코난’ 과 ‘디지몬 어드벤처’ 라는 애니메이션이다. 어릴 때는 더빙판밖에 본 적이 없어서 일본 애니메이션이라는 사실은 전혀 모르다가, 6학년이 되어서야 알게 되었다. 그 사실을 알고 나서부터는 좀 더 유심히 보곤 했는데, ‘아이디어가 정말 대단하다. 만화 그리는 사람은 멋있다.’ 하고 생각했다. 그리고 그 즈음부터 일본어를 듣는 게 어색하지 않을 만큼 많은 애니메이션을 접하게 되었다.

하지만 일본어가 익숙해져도 일본 노래는 듣기 힘들었다. 일본 노래는 들

어본 적도 없이 중학교에 입학했는데, 1학년 초에 합창대회가 있어서 숙제로 ‘합창에 쓸 만한 노래 찾아오기’가 있었다. 마침 한가했던 나는 인터넷에 검색해보았다. 몇몇 영상들 밑에, 왜 일러스트와 함께 있는 영상을 발견했다. 8인합창이라고 써 있었는데, 호기심에 재생해보니 정말 멋진 노래였다! 일본 노래인데 실력이 뛰어나거나 얼굴이 나오는 것도 아니었는데 무척 시원하고 폭발적인 노래였다. 정말 그 노래를 들은 순간 두근두근거렸다. 가사도 모르고, 실력이 좋지도 않고, 누군지도 몰랐지만 노래하는 사람들 모두 즐거운 듯이 자유롭게 부르는 노래였다. 나는 그 노래의 출처를 찾아다녔다. 그 노래의 출처는 ‘일본의 유튜브’라고 불리는「ニコニコ動画」라는 사이트였다. 그 사이트는 일본의 문화공간의 축소판 같았다. 그림, 영상, 노래, 춤, 악기, 게임, 요리, 동물 등 다양한 장르들이 한 군데에 모여 있어서 그야말로 별천지였다. 나는 일본어도 잘 모르면서 두어시간에 걸쳐 그 사이트에 가입했다.

나는 그 뒤로 그 사이트에 푹 빠졌다. 일본 노래나 문화에도 익숙해졌고, 그 사이트는 규모가 점점 커져가서, 데뷔하는 사람이 생길 정도였다. 그에 따라 나도 버라이어티, 영화, 뉴스, 드라마, 소설, 라이브 등 일본의 더 많은 매체들을 접하게 되었다. 그리고 일본어로 번역도 할 수 있게 되었다. 그러면서 많은 것을 보고 느꼈다.

일본은 문화 활동이 활발하고 자유로운 것 같다. 국내 시장도 넓다. 어린이 이부터 노인까지, 음반을 사도, 코스튬을 해도, 회사원이어도, 문화를 즐기고, 직접 만들 수도 있다. 우리나라는 K-POP이나 드라마, 영화의 국내 시장이 좁고 활동 영역도 좁다. 대부분 불법 다운로드 하는 사람들이 많다. 실제로 내 친구들도 영화나 노래, 드라마를 불법 다운로드로 보는 친구들이 많다. 하지만 일본은 조금 달랐다. 멋진 노래나 연주, 춤을 보면 ‘이건 유료로 들어야 해.’ ‘CD 내 샀으면 좋겠다’ 등의 반응이 많았다. 유명한 케이팝 가수가 아니면 정말 돈 벌기 힘든 우리나라와는 달리 일본은 음악이 다양하게 사용되고 저작권 의식이 좋은 편이어서 이익도 어느 정도 남기 때문에 국내 시장에서 이익을 얻을 수 있다.

지금 나에게 있는 일본의 인상은 대부분 ‘인터넷’에 의한 것들이다. 일본의

인터넷 언어는 내게 정말 신기했다. 예를 들어 설명하자면, www 라는 게 정말 특이하다. 우리나라로 치면 ㅋㅋㅋ같은 의미인데, 웃음 이라는 의미의 한자 笑를 입력할 때 키보드로는 warai 로 입력해야 하는데, 변환을 하지 않고 간단하게 www라고 줄여 쓰는 것이다. 또 SNS용어를 히라가나나 한자로 바꾸어 쓰는 것도 신기했다.

하지만 무서운 점도 있었다. 내가 좋아하는 베이스스트나 작곡가(위의 니코 니코 동화 라는 사이트에서 직장갑곤푼이 취미로 하던 사람들이었다.) 가 자살하는 등 자살 사건이 계속 일어나거나, 어떤 사람은 한번 저지른 실수 하나로 몇 년 동안이나 끝없이 악플에 시달리는 사람도 있었다. 가끔은 미성년자가 보기에 부적절해 보이는 것들도 흔히 보이기도 했다. 그런 점들 역시 내가 느낀 일본의 일부이다.

일본은 나에게 많은 변화를 불러왔다. 또 생각도 더 넓어졌다. 가끔은 무섭거나 외국인인 나로써는 이해할 수 없는 면도 있고, 역사적으로 부딪혀야 할 때도 있다. 하지만 그만큼 매력있는 점도 많이 있다. 우리나라와 닮았지만 다르다는 점도 재미있고, 직접 체험해 보고 싶기도 하다. 내가 느낀 일본은 극히 일부여서, 만약 일본인이 본다면 그저 웃길지도 모른다. 하지만 정말 일본 문화는 재미있고 흥미롭다. 문화를 당당하게 즐길 수 있고, 개성있는 나라, 가끔은 이해할 수 없지만 독자적인 문화가 있는 곳. 이게 내가 느낀 일본이다.

「韓日交流は必要だ」

釜山善花女子中学校2年 金引徳

ソウルでは日本の妄言を糾弾するデモが行われ、東京では嫌韓デモで騒がしい。韓国と日本はインターネットのオンライン上でもお互いの人気コミュニティサイトのサーバーをダウンさせるサイバー攻撃を繰り返している。スポーツも例外でない。韓日戦で負けたサッカーの国家代表チームには全国民から非難が浴びせられる。

「永遠の宿敵」、これは韓国と日本の関係を思い浮かべるたびに登場する言葉だ。しかし、韓国と日本は本当に近いところにいる隣人であり、お互いのことよく知っている仲だ。隣同士喧嘩もするが、一緒においしいものを分け合って食べることもある。このようにお互いおいしいものを分かち合うための手助けをするのが日韓文化交流基金だ。私たちに必要な交流の橋渡しをしてくれる組織だ。いったいどのような役割を果たしているのだろうか。

まず、文化交流とは、文化の多様性と独自性を認め合いながら、相互間の理解を深めることを目的とするものである。ことば通り、お互いの文化を体験しながら親睦を図り、理解の幅を広げる。これは日韓文化交流基金が行っている全ての事業に当てはまる。お互いのことを理解することさえできれば、私たちは心を開いて手を握り合い仲よくすることができる。このようになるまでがとても大変なのである。仲よく付き合えば、お互いが持っているものを正直にさらけ出して見ることができ、もっと親しくなれば、それをお互いに分かち合うことができる。いままでになかったものを持つようになれば発展することができ、その発展を叶えるために、結局、日本と韓国の活発な文化交流が必要になるのだ。

韓国にも得意なものと苦手なものがある。日本には私たちが必要なもの

がいくつかある。もちろん、韓国だけでなく、お互いに必要なものがある。そこで文化交流が必要なのだが、否定的な感情の中で、お互いに壁を作り警戒ばかりしてしまう。しかし、そうした壁を壊してくれる英雄がいる。結局、その英雄がハンマーで壁を壊すことになるのだが、それを後押しする私たちの役割も重要だ。

日本には私の好きなものがたくさんある。歌舞伎、富士山、温泉、ロボットなど、いろいろなものが好きだ。日本のものはどれもこれも好きだ。「好き」ということばのオンパレードだ。そして、ただの「好き」ではなく、「本当に好きだ」と言いたいもののひとつが日本の人びとの秩序意識だ。例えば、2011年3月11日に起きた東日本大震災では、自然の力の前に人間の無力さと弱さを見せつけられた。本当に多くの死傷者と経済的な損害をもたらした大災害だった。しかし、そのような混乱の中にあっても、日本の国民の秩序意識は輝いていた。宮城県仙台市のある学校のグラウンドで水の配給を受けるために集まった人びとが、グラウンドに描かれた線に沿って並んでいる写真を見ればわかる。文化交流は必ずしもスポーツや音楽や芸術だけに限ったものではなく、目には見えない人びとの習性や姿勢なども合わせて、私たちの生活の中にしみこんでくる。良い行いがほかの人たちに自然に浸透し日常化するのがもっともよい。文化交流をすることによって、こうした現象がたくさん起こることを私は望んでいる。

最後に私が望むことがあるとすれば、韓国と日本のような東アジアの多くの国々が心をひとつにして、西洋のように大きく経済発展しなければならないということだ。東アジアには経済問題、北韓（北朝鮮）問題、領土問題、歴史問題など様々な問題が混在している。こうした問題はひとつの国家だけでなく、すべての国家が力を合わせて解決しなければならない問題だ。だから、アメリカや中国と肩を並べることができるような強い国になれば、本当によいと思う。過去に日本が韓国に対して、よくない印象を与えたことは事実だ。しかし、私たちが憎まなければならないのは日本人ではなく、過去の日本の民族主義の歴史であるということを知る必要が

ある。過去のことだけを思い出し、現在の日本は見る必要はないとして、過去だけにこだわれば、韓国のこれからの発展はないだろう。私たちは私たちの目を覚ます何かを必要としていた。その何かのひとつが日韓文化交流基金だと思う。

文化交流を進め、お互いのプライドだけを強調するのではなく、お互いに足りない部分を補い合っていける点を明らかにし、国家間で起こる争いごとは韓日両国だけではなく東アジア全体の未来までも危うくするということを、理解しなければならない。

韓国と日本が文化交流を通じ、国際社会の一員として協力できれば、両国のイメージは一層改善され、先進国として発展し、世界的に大きく寄与することができると思っています。



(韓国語訳)

한일교류, 필요하다

부산선화여자중학교 2학년 김인덕

서울에서는 일본의 망언을 규탄하는 시위가 벌어지고, 도쿄에선 험한류 시위로 시끄럽다.

한국과 일본은 온라인에서도 서로의 인기 커뮤니티 사이트 서버를 다운시키는 사이버 전쟁을 벌인다. 스포츠도 예외는 아니다. 전쟁 같은 한일전에서 패한 축구대표팀에게는 전국민적인 비난이 쏟아진다.

‘영원한 숙적’, 한국과 일본의 관계를 떠올릴 때마다 등장하는 말이다. 하지만 우리와 일본은 참으로 가까운 곳에 위치한 이웃이고, 서로에 대해 꽤 많은 것들을 알고 있다. 이웃끼리는 싸우기도 하지만 함께 맛있는 것을 나누어

먹을 때도 있다. 이렇게 서로에게 맛있는 것을 먹여주기 위해 도와주는 일한 (한일)문화교류기금. 우리에게 필요한 교류를 중매해주는 곳. 얼마나 좋은 역할을 하고 있는 걸까?

먼저, 문화교류란 문화의 다양성과 독자성을 인정하는 바탕에서 상호간 이해증진을 목적으로 하는 것이 문화교류이다. 말 그대로 서로의 문화를 체험하면서 친목을 도모하고 이해의 폭을 넓히는 것이다. 이것은 일한(한일)문화교류기금에서 실행하는 모든 일들의 의의일 것이다. 서로를 이해만 한다면 우리는 마음을 열 수 있고 그 안으로 들어와 손 맞잡고 친하게 지낼 수 있다. 이런 현상이 일어나기까지는 많은 힘이 든다. 친하게 지내다 보면 서로가 가지고 있던 것들을 공평하게 내놓으며 구경도 할 수 있고, 더 친해지면 그것을 서로에게 주기도 하는 데 말이다. 없던 것이 생겨나면 발전할 수 있고, 결국 그 발전을 하기 위해서는 일본과 우리나라의 활발한 문화교류가 필요한 것이다.

우리도 잘하고 잘난 것이 있고, 못하고 못한 것이 있다. 일본 안에는 우리가 필요한 것들이 몇몇 있다. 물론 우리만이 아니라 서로가 필요할 것이지만 말이다. -그래서 문화교류가 있는것이고-하지만 좋지 않은 감정 속에서 우리는 서로 담을 쌓고 서로를 경계하기만 한다. 그러나 그런 담을 허물어줄 영웅은 있기 마련하다. 그 영웅이 결국 망치로 그 담을 무너뜨릴 수는 있겠지만 그 뒷받침을 해줄 우리의 역할도 중요하다.

나는 일본의 가부키, 후지산, 온천, 로봇 등 많은 것들을 좋아한다. 일본에 있는 이런 것이 좋더라, 저런 것도 좋더라. ‘좋다’ 라는 말을 항상 쓴다. 그리고 내가 ‘좋다’ 라는 말 말고 ‘정말 좋다’ 라는 말을 쓸 수 있는 일본의 것 중 하나는 일본시민의 질서의식이라고 생각한다.

예를 들자면, 2011년 3월 11일 자연의 힘 앞에 선 인간의 무력함과 나약함을 보여준 일본 지진. 정말 많은 사상자와 금전적인 피해를 입은 사건이다. 하지만 이러한 혼란스러운 상황 속에서도 일본 시민들의 질서의식은 빛이 났다. 미야기현 센다이의 한 학교 운동장에서 물을 배급받기 위해 모인 시민들이 땅에 그려진 선에 맞춰 줄을 서 있는 사진을 보면 알 수 있다. 문화교류는 꼭 스포츠, 음악, 예술뿐만 아니라 보이지 않는 사람들의 습성, 행동도 들어오게 하

여 우리의 생활 속에 스며들게 할 수 있다. 사람이 하는 좋은 행동은 다른 사람들에게 저절로 스며들게 하여 일상이 되게 하는 것이 최고의 목적 달성이다. 문화교류를 함으로써 이러한 현상들이 많이많이 일어나기를 바란다.

마지막으로 내가 바라는 것이 있다면 우리나라와 일본과 같은 동아시아에 있는 많은 나라들이 서로 협심하여 서양에서처럼 경제 발전을 많이 하여야 한다. 동아시아는 경제 문제, 북한 문제, 영토 문제, 역사 문제 등 수많은 문제들이 얹혀있고 이러한 문제는 한 국가가 아닌 모든 국가가 힘을 합쳐 해결해야 할 문제이기 때문이다. 따라서 미국이나 중국과 함께 어깨를 나란히 할 수 있는 부강한 나라가 되면 참으로 좋겠다.

우리의 과거에 일본사람들이 좋지 않은 인상을 남긴 것은 사실이다. 하지만 우리가 중오해야 할 것은 일본인들이 아니라, 과거 일본의 민족주의 역사라는 점을 우리는 꼭 생각할 것이다. 그렇기에 지금 우리는 과거를 떠올리며 현재 일본은 바라볼 필요가 없다고 생각한다. 과거만 들추게 되다면 더 이상 우리에게 발전이란 없다. 우리는 우리의 시야를 띄워줄 무언가가 필요했다. 그 무언가 중 하나가 일한(한일)문화교류기금이라고 생각한다.

문화교류를 함으로써 서로 자존심만 내세울 것이 아니라 서로가 부족한 부분을 채워나갈 수 있음을 명시하고, 나라끼리 생기는 다툼은 우리뿐만 아니라 동아시아의 미래까지도 결코 긍정적이지 못함을 알아야 한다. 우리나라와 일본이 문화교류를 통해 국제 사회의 일원으로서 사이 좋게 지낸다면 우리의 이미지는 한층 더 돋보일 것이고 선진국으로써 발전해나가 세계에까지 큰 기여를 할 수 있을 것이라 믿는다.

「文化交流を楽しむ私たちの姿勢」

津寛中学校3年 李賢雄

大韓民国の国民は「日本」という単語に対して相異なる認識を持っている。1つは、第二次世界大戦の悲惨な敗戦を乗り越えて世界第3位の経済大国にまで成長した国という認識、もう1つは、いまだに軍国主義と帝国主義に対する未練から抜け出せずにいて、右翼と動脈硬化に陥った政治と経済により徐々に淘汰されつつある国という認識である。日本文化に対しても、このような極端な認識が影響している。それは、一方では「興味深くモダンな文化」と称賛を惜しまないが、もう一方では「退廃的で下品な文化」と烙印を押してしまう奇妙な現象となって現れている。こうした現象は、いまだに韓日交流が本来あるべき姿で行われていないということを物語っている。なぜ私たちがこのように相異なる認識を持つようになったのか、その理由を知ってこそ生産的な韓日関係を未来に向けて築くことができるだろう。

歴史の中で見られる韓日間の交流はさておき、20世紀に入ってから韓日交流は、金大中政権による日本文化の開放以前から存在していた。20世紀前半は帝国主義の侵略の波とともにあり、後半は資本主義という名の下にあった。こうした交流は双方向の交流ではなかったという点で、望ましい文化交流だとは言えないだろう。前半の交流は、韓国の国民に肯定的な面よりも多くの否定的な面をもたらしたのは事実だ。日本に関することすべてを初めから否定的にとらえ、無意識のうちに身構えたりする姿勢は、たぶんこの頃に生まれたものだろう。そして、日本帝国主義によって主観的に歪められた植民地朝鮮に対する認識は、いまだに日本社会のいたるところに残っている。現代の一部の日本人が持つ嫌韓意識の根底には、この時につくられた歪んだ見方があるといえる。当時、多くの日本の研究

者によって韓国人と韓国文化についての研究が行われたが、大部分は純粋な学術目的のものではなく、政治的な目的を持って行われた。研究対象としての韓国人と韓国文化に対しても基本的に蔑視する意識と先入観が存在していたため、学術的価値のある研究とは言えないものだった。それらは肯定的側面を完全に否定した研究で、他者の特殊性を理解しようとし、暴力的なものであり、植民地の朝鮮人たちは批判することなく受け入れた。その結果、いまだに韓国人の中年層の一部には、自らの民族性を批判し、外国人が聞けば自らを否定するかのようになめられた民族認識を持つようになった者もいる。

1945年の解放以降、日本という単語は少しずつ私達の記憶の中から消えていくようであったが、その代わりに「理念」と「反共」のプロパガンダが韓国人の対外観となっていた。しかしながら、日本は、いや日本帝国主義の亡霊は上意下達的な軍隊式の上下関係と政経癒着という亡霊として、韓国社会に根深く潜んでいた。「日本製品のイメージ」とヒステリックな反日が、当時の大部分の韓国人が抱く日本像であった。その後、私たちは日本と意外なところで出くわすことになる。1988年のソウルオリンピックと海外旅行の自由化がまさにそれだ。さらに、90年代に起こった「春樹シンドローム」は、冷戦以降のイデオロギーの崩壊によって生まれた韓国の多くの若者の思想的な空虚感を癒してくれる友となり、『新世紀エヴァンゲリオン』をはじめとする数多くの日本のアニメーションは、いわゆる「オタク第一世代」を生み出し、日本はもはや「遠い国」ではない「隣の国」となった。日本文化の開放以降、多くの日本文化が韓国に入ってくるようになり、90年代中頃から始まった韓流は日本にも影響を及ぼした。お互いに対する関心は高まり、お互いを更によく知るようになった。しかし、私たちは今の交流が完璧なものだとは考えていない。

現在、私たちの交流はドラマやアニメーション、そして小説に偏っているということは反論できない事実である。もちろん、これらを通じて相手に対する関心が徐々に高まってきているということもまた否定できない事

実である。しかし、ある国の文化を楽しむということは、ある人と友達になることと同じだと言える。ある人と友達になろうとすれば、好き嫌いに関係なくゆっくりと時間をかけて親しくなるべきであるように、ある国の文化を楽しむときにも、ゆっくりと関心のある文化の周辺文化までも理解する心構えがなければならない。しかし、今の韓日両国の文化を楽しむ人達の中に、そういう心構えと礼儀が備わっている人が一体どれぐらい存在するだろうか。もし、それを無視して独善的に自分が好きな文化だけに関心を持ったとしたら、文化に対するバランスの取れた見方ができなくなり、自分が好きな文化さえも深く理解できなくなるであろう。

韓日間の双方向の交流がもっとも活発な今、望ましい韓日文化交流が行われるために、両国政府が相互の理解を深めるために努力している団体に対して積極的に支援すべきであり、未来世代の交流をリードすべきである。そして、異文化と接するときには、排他的な民族主義の視線で見るのではなく、相手の特殊性を理解しながら、個性を尊重する広い心構えが必要である。しかし、何よりも一番重要なことは、相手の文化を理解しようと、両国が熱意を持って努力することだといえる。



(韓国語訳)

「문화교류를 즐기는 우리들의 자세」

진관중학교 3학년 이현웅

대한민국 국민들에게 있어 ‘일본’ 이라는 단어에 대한 인식은 매우 상이하다. 한편에서는 2차 세계대전에서의 참혹한 패배를 딛고서 세계 3위의 경제대

국으로 우뚝 솟은 나라라는 인식이, 다른 한편에서는 아직도 군국주의와 제국주의의 미련에서 벗어나지 못한 우익들과 동맥경화에 빠진 정치와 경제로 인해 서서히 도태되어 간다는 인식이 자리잡고 있다. 일본문화에 대한 인식도 이런 극단성에서 자유롭지 못하다. 한편에서는 ‘재미있고 모던한 문화’라며 찬사를 아끼지 않으나, 다른 한편에서는 ‘퇴폐적이고 상스러운 문화’라고 낙인 찍어버리는 기현상이 연출되고는 한다. 이런 현상은 아직도 한일교류가 제대로, 그리고 바르게 이루어져있지 않다는 것을 역설하고 있는 것이다. 왜 우리가 이런 상이한 인식을 가지게 되었는지 그 이유를 알아야 앞으로 생산적인 한일관계를 일궈낼 수 있을 것이다.

역사에서 찾을 수 있는 한일간의 교류는 차치하더라도 20세기 들어서 한일 간의 교류는 김대중 정부의 일본문화에 대한 개방에 앞서 존재해 왔다. 처음 반세기에는 제국주의 침략의 파도와 함께, 그리고 둘째 반세기에는 자본주의라는 이름과 함께 들어왔던 것이다. 이 교류는 쌍방향의 교류가 아니었다는 점에서 이미 긍정적이 문화교류일 것이 아니라는 것을 짐작할 수 있다. 첫 반세기의 교류는 우리 민족에게 긍정적인 측면보다는 부정적인 측면을 많이 가져왔던 것이 사실이다. 아마 일본에 대한 모든 것에 대하여 처음부터 비판적이거나 무의식적인 방어자세는 아마 이때 태어났을 것이다. 그리고 아직도 일본제국주의의 왜곡되고 주관적인 식민지 조선에 대한 인식은 일본사회 곳곳에 남아있다. 현대 일부 일본인들의 혐한의식 저변에는 이때 만들어진 왜곡된 시선이 있는 것이다. 이때 당시에도 많은 일본학자들의 한국인과 한국문화에 대한 연구가 많이 행해졌었지만, 그 연구들의 상당부분이 정치적인 목적과 연결되었는 순수한 학문위주의 목적이 아니었으며, 연구대상에 대한 기본적인 멸시의식과 선입견이 깔려 있어서 학술가치가 있는 연구라고 보기 어렵다. 이것은 긍정적인 측면을 완전히 무시한 연구, 타자의 특수성을 이해하지 못한 폭력이었고, 식민지조선인들에게 아무런 비판도 없이 수용되었다. 그 결과, 아직도 일부 한국인 중년층은 아직도 자신들의 민족성을 비판하면서 외국인이 들으면 자해수준일 정도로 왜곡된 민족성 인식을 가지게 되었다.

1945년 광복 이후, 일본이라는 단어는 점점 우리들의 기억 속에서 사라지

는 듯 했고, 그 대신 ‘이념’ 과 ‘반공’ 의 프로파간다가 한국인들의 대외관을 장악했다. 하지만 일본은, 아니 일본제국의 망령은 상명하복적인 군대식 상하관계와 정경유착이라는 망령으로 뿌리깊게 자리잡고 있었다. 간간히 ‘일본제품’ 의 이미지와, 히스테리적인 반일교육이 그 당시 대부분의 한국인들의 일본상(日本像)이었던 것이다. 그러나 우리는 일본을 전혀 뜻밖의 장소에서 마주하게 된다.. 88 서울 올림픽과 해외여행 자유화 조치가 바로 그것이다. 더욱이 90년대를 휩쓴 ‘하루키 신드롬’ 은 많은 한국인 젊은이들에게 냉전 이후의 이데올로기 붕괴로 인한 사상적 공허함을 달래주는 친구가 되었으며, ‘신세기 에반게리온’ 을 위시한 수많은 일본 애니메이션들은 소위 ‘오타쿠 1세대’ 를 양산하면서 일본은 더 이상 ‘먼 나라’ 가 아닌 ‘이웃나라’ 가 되었다. 일본문화 개방 이후에 더 많은 일본문화들은 한국에 들어오게 되었고, 90년대 중반부터 시작된 한류는 일본에도 그 여파를 미치게 되면서 우리는 서로에 대한 관심이 더 높아지고 더욱 잘 알게 되었다. 하지만 우리가 지금 우리의 교류가 완전하다고 할 수는 없을 것이다.

현재 우리의 교류는 드라마나 애니메이션, 그리고 소설에 주로 편중되어 있는 것은 반박할 수 없는 사실이다. 물론 이런 현상으로서 상대방에 대한 관심이 점점 높아지고 있다는 사실 또한 부정할 수 없다. 하지만 한 나라의 문화를 즐긴다는 것은 한 사람과 친구를 맺는 것과 같다. 한 사람과 친구를 맺으려면 그 사람에 대해 좋은 싫든 서서히 알아나가고 탐구해나가야 하는 것과 같이 한 나라의 문화를 즐길 때도 서서히 관심문화 주변의 문화까지도 익히려는 마음 자세가 되어있어야 한다. 그러나 과연 지금 한일 양국의 문화소비자들 중 그런 마음자세와 예의가 갖춰져 있는 사람이 얼마나 될 지 참 궁금하다. 문화라는 것은 그냥 생기는 것이 아니라 먼저 있던 문화와의 상호작용을 통해 이뤄지는 것이다. 만일 그 상호작용을 무시하고 독선적으로 자신이 좋아하는 문화에만 관심을 가진다면, 그 문화를 대하는 균형잡힌 시선을 일궈낼 수 없을 것이고 더욱이 자신이 좋아하는 문화 또한 깊이 있게 이해하지는 못할 것이다. 한일 간의 쌍방향 교류가 유사 이래 가장 활발한 지금, 한일 문화교류가 제대로 이뤄지기 위해서는 양국 정부가 서로간의 이해증진을 위한 단체에 대한 투자

를 아끼지 말아야 하며, 미래세대들의 교류에 앞장서야 할 것이다. 그리고 다른 이들의 문화를 볼 때 배타적 민족주의의 시선으로 보는 것이 아니라 상대방의 특수성을 이해하면서 개성을 존중해주는 너른 마음가짐이 필요한 것이다. 그러나 무엇보다 제일 중요한 것은 상대방의 문화를 이해하고자 하는 학구열에 불타고 있는 양국 국민들의 노력일 것이다.

「日の昇る国」

慶南高等学校2年 王寅瑞

「日の出ずる処」を漢字にすると「日本」だ。日本はすべてのことが始まる日の昇る国だ。私にとっても、日本はすべてのことがそこから始まったといっても過言ではない。日本という国が好きになって、そこに情熱が生まれ、日本に住もうという目標ができた。日本は私にとって特別な存在だ。日本という国を思い浮かべる時に現れる、一言で表現できない微妙な「何か」がある。

おそらくその「何か」は、日本独自の個性ある大衆文化だと思う。それは小学生の頃初めて見た日本映画「DEATH NOTE デスノート」で感じることができた。その日本独自の「何か」のために、日本の映画や音楽、文化に自然と関心をもつようになり、成長してからその分野に没頭するにつれ、誰よりも多くの情熱と好奇心を日本に向けるようになった。

日本には何ともいえないセンセーショナルな雰囲気がある。少なくとも私が日本の文化から感じとった雰囲気はそうである。アジアでありながらヨーロッパの香りを放つ、日本がもっている「感じ」は、外国の良いものを受け入れる、言い換えると他人の良いところを進んで取り入れるという、日本の「良いとこ取り」精神が今の雰囲気をつくり出したと思う。

おそらく私の最初の海外旅行が日本だったので、鮮明なイメージが刻み込まれたと思う。私は今年の2月末から3月初めにかけて、友達といっしょに日本に旅行に行ってきた。初めての海外旅行なのでたくさん心配もあったが、憧れの国へ初めて旅行に行くということが私には大きな幸せだった。友達と私は「福岡」と「長崎」に行った。日本に足を踏み入れた瞬間から日本を後にする瞬間までの経験は、まさに何事にも比べるのできないものだった。特に、旅行中最も印象深かった点を2つほど挙げるとすれば、

第一には日本人の親切さだ。旅行の第1日目、私たちは泊まるゲストハウスに行き着くのに苦労し、周りの日本人に何度も道をたずねた。見知らぬ私たち外国人に対する人々の態度は、韓国と随分ちがっていた。道を聞かれても知らないと言って通り過ぎてしまうのが韓国人ならば、知らない場所でもいっしょに探そうとする細やかな親切さを持っているのが日本人だった。中には携帯電話を取り出して住所を検索してくれる人もいた。多くの人びとのおかげで宿にたどり着くことができた。あれから随分経った今でも、見知らぬ外国人の質問に親切に答えてくれた多くの人びとのことは忘れられないし、そうした親切心を根付かせた日本という国にも尊敬の念を持っている。

印象深かった第二の点は、日本の風呂文化だった。福岡旅行の時はゲストハウスに泊まったが、長崎旅行の時はいっしょに行った友達の知り合いの日本人の家に泊まった。日本人の家を訪問したのは初めてだった。そして、そこで初めて知ったのが日本の「お風呂」と韓国の「お風呂」とは違うということだった。韓国の「お風呂」は汚れた体を洗いに行くという意味なのだが、日本の「お風呂」は温かい湯につかるということであって軽いイメージを受ける。単純に思える「このお風呂」にも規則がある。まず浴槽に入る前に石鹸で体を洗ってから入らなければならない、一人が入った浴槽のお湯は捨てないで、家族全員が順に入るということ。そして日本の浴槽は韓国のように単なる浴槽ではなく、お湯の温度が下ると自動的に温度を上げるシステムも備わっていて、上で触れた「良いところ取り」の一つではないかと思った。

私が行ってきた日本は、この2つの他にも多くの長所があり、そのことについて知れば知るほど、さらに多くの魅力に引き込まれるだろう。そして日本はこれからも多くの「良いところ」をつくり出すであろうと思いながら旅行を終えた。

「そこ（日本）」に対する私の好奇心は、この旅行のおかげで冷めることのない情熱へと変わった。この旅行はとても大切な思い出となり、日本と

いう国もとても魅力的な国となった。そして、私は日本人と韓国人が同じ場所に並んで立ったとき、何の気兼ねもない日が遠からず来るだろうと心から信じている。



(韓国語訳)

「해가 뜨는 나라」

경남고등학교 2학년 왕인서

‘해가 뜨는 곳’을 한자로 바꾸면 ‘日本’이다. 일본은 모든 것이 시작되는 해가 뜨는 나라다. 나에게도 일본은 그대로 모든 것이 시작되었다고 해도 과언이 아니다. 일본이란 나라를 좋아하게 되면서, 그에 대한 열정이 생기면서 일본에서 거주하겠다는 목표가 생긴 것이다. 일본은 나에게 특별한 존재다. 일본이란 나라를 떠올릴 때 나타나는 그 무언가는 한 마디로 표현할 수 없는 어떤 미묘한 ‘무엇’이 있다.

아마 그 ‘무엇’에 대해 말하자면 일본만의 개성 있는 대중문화라고 생각한다. 초등 학생시절 처음으로 보았던 일본영화 ‘데스노트(Death Note 2006年)’에서 느낄 수 있었다. 그 일본만의 ‘무엇’ 때문에 일본의 영화나 음악, 문화에 자연스레 관심을 가지게 되었고 커 가면서 그 분야에 몰입해서 파고들다 보니 일본에 관해 누구보다 많은 열정과 호기심을 가지게 되었다.

일본은 알 수 없는 센세이션한 분위기를 풍기고 있었다. 적어도 내가 접해왔던 일본의 문화에서 느껴졌던 분위기가 말이다. 아시아 이면서도 유럽냄새를 풍기는 일본의 느낌은 외국의 좋은 것을 받아들인 일명 타인의 좋은 것은 기꺼이 취한다는 일본의 ‘이이토코토리(良いとこ取り) 정신’이 지금의 분

위기를 만들어낸 것이라고 생각한다.

아마 나의 첫 해외여행이 일본에 대한 선명한 이미지를 각인 시킨 것이라 생각한다. 나는 이번년도 2월 말에서 3월 초에 걸쳐서 친구와 함께 일본여행을 다녀왔다. 첫 해외여행이라 걱정도 컸었지만 내가 동경하는 나라를 첫 여행으로 간다는 것 자체가 나에게 큰 행복이었다. 그렇게 친구와 내가 간 곳은 ‘후쿠오카’와 ‘나가사키’였다. 일본에 발을 들여 서는 순간부터 일본을 벗어나는 순간까지의 경험이야말로 그 어떤 것과 견줄 수 없는 것이었다. 특히 여행 중 가장 인상 깊었던 점 두 가지를 뽑으라고 한다면 첫 번째는 일본인들의 친절함이다. 여행 첫 날, 우리가 머물 게스트하우스를 찾아가는 데 어려움이 있었다. 그래서 주변 일본인에게 길을 자주 묻곤 했는데, 그들이 우리, 낯선 외국인에게 대하는 태도는 한국과는 많이 달랐다. 길을 모른다면 잘 모른다고 하고 지나가는 것이 한국이라면, 모르는 곳이라도 같이 찾아주려고 하는 섬세한 친절함이 일본이었다. 심지어 개중에는 휴대폰을 꺼내 주소를 검색해주는 분도 계셨다. 많은 사람들 덕분에 숙소를 찾아갈 수 있었고 시간이 지난 지금도 낯선 이방인들의 질문에 친절하게 답해주신 많은 분들의 친절을 잊을 수 없으며 그러한 친절이 바탕이 되게 한 일본이란 나라에도 존경을 표한다.

두 번째로 인상 깊었던 점은 일본의 목욕문화였다. 후쿠오카 여행 때는 게스트하우스에서 잠을 해결했었지만, 나가사키 여행 때는 한국 친구의 일본인 친구 집에서 머무르게 되었다. 일본식 집을 처음으로 방문하였는데, 기억에 남는 것이 있었다면 ‘오후로(お風呂)’였다. 그리고 그 곳에서 처음으로 알게 된 것이 바로 일본의 ‘목욕’과 한국의 ‘목욕’이 다르다는 것이었다. 한국의 ‘목욕’은 더러운 몸을 씻으러 간다는 의미지만, 일본에서의 ‘목욕’은 따뜻한 물에 몸을 담그러 간다는 의미로써 목욕에 대해 가벼운 이미지를 심어 주었다. 단순해 보이는 ‘이것’에도 규칙이 있는데 먼저 욕조에 들어가기 전 비누로 몸을 씻고 들어가야 하며, 사용했던 물은 버리지 않고 온 가족이 순서대로 사용한다는 것이다. 그리고 일본의 욕조는 한국처럼 그냥 욕조가 아닌, 물 온도가 내려가면 자동으로 물 온도를 맞춰주는 서구식 시스템도 갖추어져 있어서, 앞서 말한 ‘이이토코토리’의 한 부분이 아닐까 라고도 생각했다. 내

가 다녀왔던 일본은 이것보다 더 많은 장점이 있었고 그것에 대해 알아갈수록 더 많은 매력에 빠질 것이다. 그리고 앞으로도 더욱 더 많은 장점들이 만들어 질 것이라고 생각하며 여행을 마무리했다.

그곳에 대한 나의 호기심은 나의 여행 덕분에 식을 수 없는 열정으로 바뀔 수 있었기에 여행은 충분히 값진 기억이었고, 일본이라는 곳도 충분히 매력적인 나라였다. 그리고 나는 진심으로 일본인과 한국인이 같은 곳에 섰을 때, 어색하지 않는 날이 머지않아 올 것이라고 믿는다.

「責任あるコミュニケーションに基づいた交流の継続強化」

京畿外国語高等学校2年 張普景

「交流」ということばを辞書で引いてみると、「根源が異なる流れが交わって流れること」または「文化や思想などが往来すること」と書かれている。お互いを結びつけるチャンネルを多様化し、結ばれたチャンネルを嘘偽りのない真心を持って維持すれば、本当の意味での交流が可能だ。しかし、現在の韓日間の交流にはどこか不自然さを感じる。特に、韓国と日本のように、過去の歴史についてお互いによくない記憶を持っている場合には、お互いを結びつけることがうまくいかず、これから新しく関係を築こうとする国との関係よりも、もっと難しいかもしれない。このような理由で多くの人びとは、韓国と日本の関係を「近くて遠い国」だと言う。地理的なことだけでなく、政治的、社会文化的に近い国になるためにはどうしたらよいか。すでに私たちは解決法を知っている。お互いのコミュニケーションと理解を通じ信頼を回復して好循環のきっかけがつかめれば、両国間の関係はよい方向に進んでいくだろう。しかし、実際にいろいろな試みや多くの努力がなされているにもかかわらず、期待以上の効果が現れないのはなぜだろうか。現在、両国間のコミュニケーションのあり方や交流の特徴を見ると、その理由がわかる。

現在の韓日間の交流を量的な面から見ると、ほかの国に比べて交流の幅が狭いわけでも、数的に少ないわけでもないようだ。しかし、質的な面で交流に悪影響を与える点があるようだ。まず、責任ある双方向のコミュニケーションが減ってきており、外部の要因によって真心のこもった交流と、その継続性が脅かされている。

まず、「責任ある双方向のコミュニケーションの減少」について話したいと思う。今はインターネット時代を超えてSNS時代になり、とても簡

単に不特定多数の人に自分の考えを伝えることができる時代だ。無分別だと言っているぐらい、以前よりもずっと簡単に自分の考えをほかの人に伝えることができるようになったが、相手を理解する機会は減り、自分の考えを伝える機能だけが発達している。個人的によく知らない人との対話は、まるで一方にだけマイクがあってもう一方にはスピーカーしかない、ガラス板を間に置いて一方的に叫んでいるようだ。このようなコミュニケーションの仕方はプラスの効果ではなくマイナスの効果が現れやすく、コミュニケーションの結果がどのように現れるか予測するのが難しい。すでに内面に傷を負っている相手に、さらに大きな傷を負わせる可能性もある。論争が感情的な喧嘩に発展しやすく、一部分だけを抜き出した内容が無差別に伝えられ、誤解を増幅させる役割をする。全体的に見ると、以前に比べコミュニケーションの規模は大幅に膨らんだが、責任と真心を持ったコミュニケーションは相対的に減ってきている。コミュニケーションの増加よりも相互間の信頼を確保するということがもっとも大切だが、そのためには責任あるコミュニケーションを増やすことが重要だ。

次に「交流の継続性が脅かされている」という問題は、コミュニケーションの方法以上に深刻な問題だ。それぞれ異なる背景を持った者同士が交流を始め、相互の信頼関係を深めようとするなら、コミュニケーションの継続性を確保することがとても重要だということは言うまでもない。しかし、韓日関係を振り返ると、両国の交流が盛んになったかと思うと、急に断絶してしまうケースがよく見られる。国家間にデリケートな問題が生じると、いとも簡単にいろんな関係が絶たれてしまう。私は小学校5年生のときからYWCAで日本語を学び始め、韓日学生交流プログラムに3年間参加してきた。このプログラムを通じて日本を理解する機会を持つようになり、日本を訪問して日本人と友達になり、また日本の友達が韓国を訪問したりもした。しかし、あるとき急にプログラムが中止になったことがあった。両国間の領土問題が大きくなり国民感情が良くないという理由で、プログラムを支援する政府機関は予算をカットし、その結果プログラ

ムは中止になった。私が一番残念に思ったのは、そうした良くない状況であればあるほど、逆に肯定的な交流を増やさなければならないのに、交流を中断したということだ。何かが起きるたびに、それが収まるまで待たなければならないという受け身の姿勢は、これから進もうとする歩みを後退させ消耗させる。交流を始めるのは大変で重要だが、それよりも続けることの方がもっと重要だ。

国家間の関係においては自国の利益を優先するため、状況によっては仲が悪くなり、また良くなることもある。関係が悪くなったときでも、両国の関係を修復するのは相互信頼であり、その信頼は普通の平凡な人たちの間の交流から始まると私は信じている。このようなチャンネルを一つ一つ増やしながら、信頼を深めなければならない。しかし、これから私たちが大切にして実践していかなければならないことは、「責任あるコミュニケーションの確保」と「交流の継続性の確保」というふたつのことだろう。私たちは自分の言動に対する責任ある態度、真心を伝えるコミュニケーションの仕方を養い、また広めていかなければならない。もう一方で、すでに行われている交流の継続を維持し、外部の要因によって左右されないように制度を強化しなければならない。何かあるとすぐに止まってしまうような交流のパターンから抜け出さなければならない。真心と継続性が保証される場合にのみ、「コミュニケーションと理解を通じた相互信頼の構築」という好循環の仕組みは確立される。



「책임감 있는 소통을 기반으로 한 교류의 지속성 강화」

경기외국어고등학교 2학년 장보경

사전에 정리되어 있는 교류(交流)의 의미는 ‘근원이 다른 물줄기가 서로 섞이어서 흐름’, 또는 ‘문화와 사상 따위가 서로 통함’이다. 서로를 연결하는 채널을 다양화하고, 연결된 채널의 진정성(眞情性)을 지속적으로 유지해야 진정한 의미의 교류가 가능하다. 하지만 현재의 한일간의 교류는 무언가 자연스럽지 않다. 특히, 한국과 일본처럼 과거의 역사 속에서 서로에게 좋지 않은 기억들을 간직하고 있는 경우는 서로를 연결하는 과정이 매끄럽지 않을 수밖에 없고, 새로이 관계를 만들어 가는 나라와의 관계보다도 오히려 더 어려울 수도 있다. 이런 이유로 많은 사람들이 우리나라와 일본의 관계를 ‘가깝고도 먼 나라’라고 얘기한다. 지리적으로뿐만 아니라 정치적, 사회 문화적으로 가까운 나라가 되려면 어떻게 해야 할까? 우리는 이미 해결 방법을 알고 있다. 상호간의 소통과 이해를 통한 신뢰 회복이라는 선순환의 고리가 확립되면 양국간의 관계는 긍정적인 방향으로 나갈 것이다. 그러나 실제로 다양한 시도와 적지 않은 노력이 이루어지고 있음에도 기대만큼의 효과가 나타나지 않는 이유는 무엇일까? 현재 양국간에 소통의 방식이나 교류의 특징을 살펴보면 그 이유를 찾을 수 있다.

현재의 한일 간의 교류를 양적인 측면에서 보면 다른 나라에 비해 교류의 폭이 좁은 것도 아니고, 수적으로도 적지 않은 것 같다. 하지만, 질적인 측면에서 교류에 악영향을 주는 문제점이 있는 것 같다. 첫째는, 책임감 있는 양방향 소통의 비중이 줄어들고 있다는 것이고, 외부 요인에 의해 교류의 진정성과 지속성이 자주 위협받고 있다는 것이다.

먼저 ‘책임감 있는 양방향 소통의 비중 축소’에 대해서 얘기해보자. 지금

은 인터넷 시대를 지나 SNS 시대에 접어들었고, 너무나 쉽게 불특정 다수에게 나의 생각을 전달할 수 있는 시대이다. 무분별 하다고 말할 수 있을 정도로 과거보다 훨씬 쉽게 내 생각들을 타인에게 전달할 수 있게 되었지만, 상대방을 이해하는 과정은 줄어들고, 자신의 생각을 전달하는 기능만이 강화되었다. 개인적으로 잘 모르는 사람들과의 대화는, 마치 한쪽에만 마이크가 있고 반대편에는 스피커만 있는 유리벽을 사이에 두고 일방적으로 외치는 것과 같다. 이와 같은 소통 과정은 긍정적인 효과보다는 부정적인 효과를 나타내기 훨씬 쉽고, 소통의 결과가 어느 방향으로 될지 예측하기 어려워진다. 이미 내면에 상처를 갖고 있는 상대방에게 더 큰 상처를 주기 쉬운 것이다. 논쟁에서 감정적인 싸움으로 번지기 쉽고, 일부분이 발췌된 내용의 무차별적 전달은 오해를 증폭시키는 역할을 한다. 전체적으로 과거에 비해 소통의 규모는 대폭 증가했지만, 책임감과 진정성이 확보된 소통의 비중은 상대적으로 줄어들었다. 소통의 증가보다 상호간의 신뢰를 확보하는 과정이 더욱 중요한데, 이를 위해서는 책임감 있는 소통 방식을 확대하는 것이 매우 중요하다.

두 번째로 언급한 ‘교류의 지속성 위협’ 문제는 소통 방식 못지 않게 심각한 문제이다. 각자 다른 배경을 가진 양자가 교류를 시작하여 상호 신뢰 관계로 발전시키려면 소통의 지속성을 확보하는 것이 매우 중요하다는 것은 말할 필요가 없다. 그러나 한일 관계를 되돌아 보면, 양국간의 교류가 증가하는 듯하다가 갑자기 단절이 되어 버리는 경우가 너무 쉽게 발생한다. 국가간의 민감한 이슈가 발생하면 너무나 쉽게 여러 관계들이 단절되어 버린다. 내가 초등학교 5학년때부터 YWCA에서 일본어 공부를 시작하면서, 한일 학생 교류 프로그램에 3년간 참여했었다. 이 프로그램을 통해 일본을 이해하는 기회를 갖게 되었으며, 일본을 직접 방문하여 친구를 사귄 기회가 있었고, 또 일본 친구들이 우리나라를 방문하기도 하였다. 그러나 어느 순간 갑자기 프로그램이 중단된 적이 있었다. 양국간에 영토 문제가 불거지면서 행사를 지원하던 정부 기관에서는 국민 감정이 안 좋다는 이유로 예산 배정을 안 했고, 결과적으로 행사가 취소된 것이다. 내가 가장 아쉬웠다고 생각한 부분은, 그런 부정적 상황일수록 한 편에서는 긍정적인 교류를 확대해야 하는데, 반대로 교류를 중단

했다는 것이었다. 무슨 일이 생길 때마다 그 일이 잠잠해 질 때까지 기다리는 이런 수동적인 자세는 애써 앞으로 나아가던 발걸음들을 제자리로 돌리는 소모적인 행태이다. 교류는 시작이 힘들고 중요하지만 그보다 지속성을 유지하는 것이 훨씬 더 중요한 것이다.

국가간의 관계에서는 자국의 이익을 우선시하기 때문에 상황에 따라 사이가 나빠질 수도 있고, 또 좋아질 수도 있다. 관계가 나빠질 대로 나빠졌을 때에도 두 나라의 관계를 복원시켜 주는 힘은 상호 신뢰이고, 그 신뢰는 평범한 사람들 사이의 교류에서 시작된다고 나는 믿는다. 이런 채널들을 하나씩 늘려감으로써 신뢰의 강도를 높여가야 함은 두 말할 나위 없다. 하지만 앞으로 우리가 중요하게 생각하고 실천해야 하는 길은 ‘책임감 있는 소통 방법의 확보’와 ‘교류의 지속성 확보’ 두 가지인 것 같다. 자신의 의사 표현에 대해 책임지는 소통 기술, 진정성을 전달할 수 있는 소통 방법을 우리는 강화하고 또 교육시켜야 한다. 또 한편으로는 이미 시작된 교류의 지속성을 강화하고 외부의 요인에 의해 위협받지 않도록 제도를 강화해야 한다. 무슨 일이 터지면 있던 일도 취소해버리는 교류의 패턴에서 우리는 탈피해야 한다. 진정성과 지속성 담보되는 경우에만 ‘소통과 이해를 통한 상호 신뢰 구축’이라는 선순환 구조가 확립될 수 있다.

「今でも忘れない、日本の地を踏んだ瞬間 私に向かって振ってくれた客室乗務員のあの白い手を」

彌鄒忽外国語高等学校2年 趙在赫

韓国の奨学生として日本に6ヶ月ほど滞在することになった私は、初日から日本の魅力に完全にとりつかれてしまった。日本人は誰もが優しい。とくに勤務中の店員達はいつも微笑をうかべ、お客に接する彼らの口元にも温かな微笑がある。

「私も日本に生まれたらよかったのに」

一瞬、こう考えてしまった私はびっくりした。まだ、日本に来てからいくら経たないのに、もうこんなことを考えるなんて。本当に恐ろしいほどに魅力をもった国に違いない。だが、この時、私は自分がまだ日本のごく一部しか見ていないことに気がつかなかった。

日本の学校に初めて登校する日、私はときめく胸をどうすることもできなかった。これまで見てきた優しい日本人だったら当然私を歓迎してくれるだろう、私は堂々と教室のドアを開けた。だが、それは私の妄想に過ぎなかった。自己紹介が終わり休み時間になっても、彼らは言葉をかけてくれるどころか、近づいて来ようとさえしなかった。彼らの眼には自分たちの空間に侵入してきた見知らぬ外国人への警戒心がこもっていた。あまりに予想外の反応だったため、私はまるで借りてきた猫のようにぼんやりと座っているしかなかった。

そのとき、私はハッと気がついた。彼らはその笑顔や他人に対する態度ほどには、社交的な民族ではなかったのだ、と。

「彼らのなかに溶けこんでいくには私から変わらなきゃ」

そのときから私は静かに座って彼らが示してくる好意だけを待っている態度を捨てて、積極的に彼らに混じって過ごしていくために不断の努力を

傾けた。幸いにも、その努力は無駄ではなかったのか、しばらくして私はいつの間にか彼らの壁のなかに入り込んでいた。

私が見た日本人は2つの姿を持っていた。彼らが属する集団のなかでの飾り気のない姿と、外部の人に見せる「礼儀正しさ」と「優しさ」の仮面をつけた姿。いくら自分とちがう他人でも、つくろった顔をして人に対することを「人情がない」と決めつける韓国人とは完全にちがう姿だった。学校の生徒たちの立場からすれば、私は彼らが築き上げた集団のなかに突然あらわれた外国人だったため、彼らとの葛藤が起きないはずがなかったのだ。

この事件で、私は第一印象とはあまりに違う彼らの姿にショックを受けた。日本の一面だけを見て、判断してしまった自分の軽率さに腹が立ち、まだ彼らには私が知らない姿が存在しているのかと恐れた。予想通り、2度目の事件が起きるまでそれほど長い時間はかからなかった。

私が世話になった日本人の家族は優しい人たちだった。彼らは私のことが心配だったのか、いつも日本で注意すべきことについて教えてくれたのだが、そのうちの1つが、「いくら好意でも日本では人の子供の体に手を触れたりするとセクハラだと誤解されることがある」というものだった。この話はその家の家族だけでなく、いろいろなところで常に注意されたのだが、繰り返して言われたので、いつの間にか私も警戒心をもつようになっていた。

そうしたある日、私は東京ディズニーランドに行く機会があった。やはり、夢と希望の国と呼ばれるほど面白く、見所もたくさんあるところで、乗り物に乗るために並んでいる途中、私の後ろに立っていたある日本人の女性が自分の娘を列に残して、どこかに行く姿を目にした。4～5歳ぐらいに見える女の子はいくら経ってもお母さんが来ないので、ついに泣き出してしまった。まだ日本語がつかない私は当惑して、周りの日本人が声をかけるのをやきもきして見守っていた。だが、周りの人たちは同情する表情で見ているだけで、誰もそのかわいそうな女の子に手を差し伸べようと

はしなかった。見ていられなくなった私は女の子に近づき、つたない日本語でお母さんはすぐ来るよと安心させ、背中をさすってあげ、手を握ってやり、女の子のお母さんを待っていた。まるで永遠にも思われた15分後、幸い女の子のお母さんは戻ってきて、私に「娘の面倒を見てくれていてありがとう」と言ってくれた。

良いことをしたのだが、私は1つの罪の意識を感じた。子供を慰めてあげなければと決心するのを瞬間ためらったことだ。あの子はまったくの他人なのに、私が余計なことをしているのではないか、間違っセクハラ犯にされてしまったらどうしよう、という気持ちが知らない間に私の行動を引きとめたのだ。心が重かった。日本で過ごす間に彼らの色にあまりに多く染まってしまったようだった。日本人は自分に近づいてくる人には限りなく優しい。だが、反対に自分が他人に手を差し伸べることには限りなく冷たく非情でさえある。

韓国と日本は飛行機で2時間ほどこしかかからない、近い国だが、私が経験した日本は韓国とは埋めることのできない大きな国民性の違いが存在した。残念なことに、日本に滞在している間、完璧な日本人として過ごそうという私の決心は碎けてしまった。だが、私は後悔しない。泣いている幼い子にためらいなく慰めの手を差し伸べることのできた私、他でもない韓国人であることを自ら証して見せたのだから。



「나는 아직도 잊지 못한다. 일본 땅을 밟는 순간,
나를 향해 흔들어 주던 일본 승무원의 그 하얀 손을」

미추홀외국어고등학교 2학년 조재혁

나는 아직도 잊지 못한다. 일본 땅을 밟는 순간, 나를 향해 흔들어 주던 일본 승무원의 그 하얀 손을.

한국 장학생으로써 일본에 6개월간 머물게 된 나는 첫날부터 일본의 매력에 흠뻑 빠져 버리고 말았다. 일본인들은 하나같이 상냥하다. 특히 근무 중인 직원들일 경우 항상 얼굴에 미소를 띄고 손님들을 대하여 보는 모든 이들의 입에도 흐뭇한 미소를 선사한다.

‘나도 일본에서 태어났으면 좋았을 걸’

순간 이런 생각을 해버린 나는 깜짝 놀라버렸다. 아직 일본에 온 지 얼마 되지도 않았는데 벌써 이런 생각이 들다니, 정말 무섭도록 강한 매력을 지닌 국가가 아닐 수 없다.

하지만 이 때 나는 내가 아직 일본의 아주 작은 한 부분만을 보고 있다는 것을 눈치 채지 못하였다.

일본 학교에 처음 등교하는 날, 나는 설레는 가슴을 주체할 수 없었다. 지금까지 보아왔던 상냥한 일본인들이라면 당연히 날 환영해 주리라, 난 당당히 교실 문을 열어젖혔다.

하지만 그것은 나의 망상에 불과했다. 자기소개가 끝나고 쉬는 시간이 되어도 그들은 말을 걸어 주기는커녕 가까이 다가오려고조차 하지 않았다. 그들의 눈에는 자신들의 공간에 침입한 낯선 외국인에 대한 경계심이 잔뜩 담겨 있었다. 너무나도 예상 외의 반응이었기에 나는 마치 꾸어다 놓은 보릿자루처럼 멍하니 앉아 있을 수 밖에 없었다.

그 때 나는 펄쩍 정신이 들었다. 그들은 그들의 얼굴에 배어 있는 웃음만큼, 남을 대하는 태도만큼 사교적인 민족은 아니었던 것이다.

‘그들 속에 섞여 들어가려면 나부터 변해야 되겠구나’

그 때부터 나는 가만히 앉아서 남이 나에게 베푸는 호의만을 기다리는 태도는 지워 버리고 적극적으로 그들과 섞여 지내기 위해 부단한 노력을 기울였다. 다행히 그 노력이 헛된 것은 아니었는지 시간이 지난 후 나는 어느 샌가 그들의 경계망 안쪽에 들어와 있었다.

내가 본 일본인들은 두 가지 모습을 지니고 있었다. 그들이 속한 집단 속에서 꾸밈없는 모습과 그 외의 타인에게 보이는 ‘예의 바름’ 과 ‘상냥함’ 의 가면을 쓴 모습. 아무리 우리와 다른 타인이라도 가식적인 얼굴을 하고 대하는 것을 ‘정이 없다’ 고 치부하는 한국인들과는 사뭇 다른 모습이었다. 학교 아이들의 입장에서 나는 그들이 구축해 놓은 집단 속에 갑자기 나타난 외국인이었기 때문에 그들과 갈등을 빚지 않을 수 없었던 것이다.

이 사건 이후 나는 첫인상과는 너무나도 다른 그들의 모습에 충격을 받았다. 일본의 한 면만을 보고 판단해 버린 나의 안일함에 화가 났고 아직도 그들에겐 내가 모르는 모습이 존재하고 있을까 두려웠다. 아니나 다를까, 두 번째 사건이 일어나기까지는 그다지 오랜 시간이 걸리지 않았다.

내가 신세를 졌던 일본인 가족들은 상냥하신 분들이었다. 그들은 내가 걱정되었는지 자주 일본에서 주의할 점에 대해 알려 주시고는 했는데 그 중의 하나가

‘아무리 호의라고는 해도 일본에서 아이들을 잘못 만지면 성추행으로 오해를 살 수 있다’ 는 것이었다. 이 이야기는 일본인 가족들뿐만 아니라 여러 곳에서 자주 주의를 받았었는데 계속 반복해서 듣다 보니 어느 샌가 나도 경각심을 가지게 되었다.

그러던 어느 날 나는 일본 디즈니랜드를 방문할 기회를 가지게 되었다. 과연 꿈과 희망의 나라라고 불릴 정도로 재미있고 볼거리가 많은 곳이었는데, 놀이기구를 타기 위해 줄을 서는 도중 내 뒤에 서 있던 어느 일본인 여성이 자신의 딸에게 줄을 세워놓고 어디론가 가는 모습을 목격했다. 네다섯 살 정도로

보이는 꼬마 아이는 시간이 지나도 어머니가 오지 않자 곧 울음을 터트렸고, 아직 일본어가 서툰 나는 당황해서 주변의 일본인들이 도와 주기를 받을 동동 구르며 지켜 보았다. 하지만 주변의 사람들은 동정심 어린 표정으로 바라 보기만 할 뿐 아무도 그 불쌍한 여자아이에게 손을 내밀어 주지 않았다. 보다 못한 나는 여자 아이에게 다가가 서툰 일본어로 어머니는 곧 오실 거라 안심시키며 등을 토닥여 주었고, 같이 손을 잡고 줄을 서며 아이의 어머니를 기다렸다. 마치 영원 같았던 15분 후 다행히도 어머니는 아이를 데리러 오셨고 나에게 딸 아이를 보살펴 주어서 고맙다고 인사를 건넸다.

좋은 일을 하였지만 나는 한가지 죄책감이 들었다. 아이를 달래 주어야 한다는 내 결정을 순간 망설였다는 것이다. 저 아이는 완벽한 타인인데 내가 괜한 일을 하는 것이 아닌가, 잘못해서 성추행범으로 몰리면 어찌지? 하는 마음이 나도 모르게 내 손목을 붙들었던 것이다. 가슴 한 구석이 무거워졌다. 일본에서 지내는 동안 그들의 색깔에 너무 많이 물들어버린 모양이었다.

일본인들은 자신에게 다가오는 사람에게는 한없이 상냥하다. 하지만 반대로 자신이 타인에게 손을 내미는 일에는 한없이 차갑고 매정하기까지 하다.

한국과 일본, 비행기로 겨우 두 시간 남짓밖에 걸리지 않을 정도로 가까이 있는 두 나라지만 내가 경험한 일본은 한국과는 메울 수 없는 큰 국민성의 차이가 존재했다. 안타깝게도 일본에서 머무는 동안 완벽한 일본인으로써 지내자는 나의 결심은 깨어지고 말았다. 하지만 나는 후회하지 않는다. 울고 있는 어린 아이에게 아무 거리낌 없이 도움의 손길을 건넬 수 있었던 나는, 다름아닌 한국인임을 스스로 증명해 보였으니까.